

Hyper Security USB Memory

user's manual Version6 ご利用の前に

ハイパーセキュリティーUSBメモリをご購入ありがとうございます。

私たちアブロードシステムズは単体商品以外にパッケージ化などのトータルなソリュー ションも提供しています。 本製品は情報商材ビジネスや情報漏えいの防止を目的とする為の商品です。 企業が求めているニーズが様々なため、カスタマイズ機能が提供されています。 製品シリーズは用途別にハイパーセキュリティー、ハイパーセキュリティー、ハイパー プラスの3つの商品に分かれています。本マニュアルはハイパーセキュリティーの説明 です。

最初にご利用の場合は、USBメモリに空き容量がありませんので説明書を確認の上 必要な操作を行って下さい。

はじめての操作 P.9~P.12

最低限上記の説明で基本的な流れが説明されています。 不明点があれば、詳細の説明ページをご確認下さい。 操作や機能についてのご質問は「お客様サポートについて」をご参照ください。

また、コンテンツの販売をご検討の方は、「デジタルコンテンツの販売」(P.52)もご参照ください。



ハイパーセキュリティーUSBメモリ 目次1

目次 P.2~P.4

- 動作検証済みのソフトウェアー P.5
- ⇒ 動作確認済みソフトウェアー覧
- ⇒ 別名保存の禁止機能 検証済ファイル形式

一般的なセキュリティーメモリとの違い P.6

- ⇒ 既に設定されており解除できない保護機能
- ⇒ 管理者によって有効にできる禁止操作
- ⇒ 製品シリーズの特長

製品仕様 P.7

製品名/寸法・重量/材質/刻印/フラッシュメモリ インターフェイス/製品保証期間/動作環境/データ保持期 間/書き換え回数/注意事項/フォーマット/容量/対応OS/ ファイル容量制限/対応していない機能/製品機能の保証

~ はじめての操作 ~

基本的な使い方 P.9

- ⇒ 保存するだけの簡単操作
- → 最初に実行するソフト
- \Rightarrow $p_{1} = p_{1} = p_{1}$
- ⇒ 保護領域ついて
- ⇒ 非保護領域へ切り替える

機能を変更する P.10

- ⇒ セキュリティー機能を変更する
- ⇒ コピー許可フォルダ
- ⇒ USBメモリの取り外し操作

便利な機能 P.11

- ⇒ オートロック機能
- ⇒ 許可ソフトの設定
- \Rightarrow UsbManage.exe
- ⇒ ファイルコピーの禁止
- ⇒ コピーガードの解除
- ⇒ 付属ソフトについて

2つの領域と切り替え操作 P.12

- ⇒ 2つの領域確認方法
- ⇒ 非保護領域→保護領域へ
- ⇒ 保護領域→非保護領域へ
- ⇒ USBメモリの取り外し

付属ツールについて P.13

UsbStart / UsbQuickStart / UsbQuicStart_Admin / UsbManage / AutoStart / Usb安全な取り外し.exe / UsbRemove. / UsbBack. / UsbPW.exe / UsbStealth

ご利用にあたっての注意事項 P.14

~ ハイパーセキュリティーUSBメモリの保護機能 ~ 基本操作

あなたのビジネスに活用する P.16-17

- ⇒ コピーガード機能と活用方法
- ⇒ 一般的なセキュリティーUSBメモリとの違い
- ⇒ パスワードの設定
- ⇒ 日付や回数の制限
- ⇒ 外国での利用に関して
- ⇒ 対応コンテンツと注意事項
- ⇒ 自動更新機能
- ⇒ USBメモリを媒体として利用するメリット
- ⇒ コピーガードの強度

~ 管理ソフトUsbManageの使い方 ~

UsbManage/管理パスワードの入力 P.19

- ⇒ Cドライブからの利用
- ⇒ 管理パスワードの入力
- ⇒ UsbManageが起動しない場合

UsbManage/禁止設定 P.20~21

- ⇒ 全ての印刷を禁止する
- ⇒ PrintScrnを禁止する
- ⇒ ファイルコピーを禁止する
- ⇒ クリップボードを禁止する(コピー&ペーストの禁止)
- ⇒ 保護領域への書き込みを禁止する
- ⇒ ネットワークドライブを禁止する
- ⇒ Adobe Acrobatのメニューをロックする
- ⇒ コピー許可フォルダの利用
- ⇒ 非保護領域の空き容量をゼロにする
- ⇒ 設定レポート作成 (Setting.txtの保存)
- ⇒ UsbManageが起動しない場合

UsbManage/許可ソフトウェア P.22

- ⇒ 許可ソフトウェアの登録
- ⇒ 選択リスト
- ⇒ 許可リスト
- ⇒ 追加リスト
- ⇒ 許可ソフトを登録できない場合
- ⇒ 開けないテキストファイルの設定



• • • • • • • • • • •

※1)「別名保存の禁止」はソフトウェアー の作り方に依存する為、個別対応が必要 な場合があります。この為、市場で発売 されている全てのソフトウェアーが対応し ている訳ではありません。ただし、当社で 確認しているソフトウェアーで未対応なソ フトはありません。

※2)Hyper SecurityやHyperPlusといった 製品では可能です。

.

· *





.

UsbManage/別名保存禁止 P.23

- \Rightarrow 別名禁止が必要なソフト
- \Rightarrow 選択リスト

şir /

- \Rightarrow 禁止リスト
- \Rightarrow 保護領域に保存されている形式のみ禁止
- \Rightarrow 別名保存の禁止は指定したソフトに限る

UsbManage/パスワード P.24

- \Rightarrow ユーザーパスワード
- \Rightarrow 管理パスワード
- \Rightarrow 設定条件
- \Rightarrow 不適合ロック回数
- \Rightarrow ユーザーパスワード桁数
- \Rightarrow パスワードヒント
- \Rightarrow 管理パスワード桁数

UsbManage/言語表示 及び輸出書類について P.25

- \Rightarrow 外国での利用
- \Rightarrow 自動設定と言語指定の違い
- \Rightarrow 管理者用と利用者用の表示方法の違い
- \Rightarrow 非該当証明書(輸出書類)、HSコード

UsbManage/起動動作 P.26

- 初回起動時にUsbQuickStartのセットアップ画面を \Rightarrow 表示する
- 起動時に利用回数、利用日数の表示を行う \Rightarrow
- \Rightarrow UsbStartの実行回数を指定する
- \Rightarrow UsbStartの実行日数を指定する
- \Rightarrow 利用有効期限を設定する
- \Rightarrow 自動更新チェック

自動更新機能 P.27

- \Rightarrow 自動更新チェック
- \Rightarrow 手動の更新操作
- \Rightarrow バージョンとリビジョン

UsbManage/日付検査 P.28

- \Rightarrow NTPとは
- \Rightarrow インターネットを使った厳密な日付検査
- \Rightarrow NTP Serverの設定
- \Rightarrow NTP検査を必須とする
- \Rightarrow NTPテスト

UsbManage/レスキュー P.29

- \Rightarrow レスキューコードが必要なケース
- \Rightarrow Information Errorの強制回避
- \Rightarrow マシン情報
- \Rightarrow 別名保存禁止をレスキューコードで解除する
- \Rightarrow 製品別のレスキュー機能

UsbManage/製品情報 P.30

- \Rightarrow 著作権者、コンテンツ名、連絡先の登録
- \Rightarrow 起動時に製品情報を表示する
- \Rightarrow エラー表示

UsbQuickStart P.32

- \Rightarrow UsbQuickStartのセットアップ
- \Rightarrow UsbQuickStartで追加される拡張機能
- \Rightarrow はじめから保護領域を表示する
- \Rightarrow User Account Control
- \Rightarrow 制限アカウントの実行(標準ユーザー)
- UsbStartの自動実行をキャンセルする \Rightarrow
- \Rightarrow UsbQuickStartをネットワークから実行する
- \Rightarrow UsbQuickStartのアンインストール

UsbStealth(Usbステレス) P.34

- \Rightarrow データを隠す(非表示化)
- \Rightarrow UsbStealthの実行方法
- ステルスON(見えなくする) \Rightarrow
- \Rightarrow ステルスOFF(元に戻す)
- \Rightarrow Stealth Mac/UNIX
- \Rightarrow Encryrtion(暗号化オプション)
- \Rightarrow Password
- \Rightarrow Select Target file
- \Rightarrow 非表示化できないフォルダ
- \Rightarrow 動作可能なUSBメモリ

~トラブルサポートと対応 ~

FAQ(よくある質問と回答) P.37

- \Rightarrow データを保存する前にUSBメモリを抜いてしまった。
- \Rightarrow ウィルスには感染しませんか?
- \Rightarrow パスワードは必ず必要ですか?
- \Rightarrow パスワードを入れても進まない
- \Rightarrow 別名保存が禁止されない
- \Rightarrow メールでエラーになる
- 特定のプログラムでファイルが開かない \Rightarrow

Abroad Systems, inc.



ハイパーセキュリティーUSBメモリ 目次3

- \Rightarrow $7_7 7_9 + 8_0 +$
- \Rightarrow $\exists l' \& v' \land h \land v \in S$
- ⇒ 印刷ができない

製品保証 P.38

- ⇒ 保証内容
- ⇒ 保証対象にならないケース
- ⇒ 免責事項
- $\Rightarrow \forall \pi b$
- ⇒ 問い合わせWEBページ

製品サポート番号 P.39-40

- ⇒ サポート番号
- ⇒ 製品サポートに関して

~ トラブルの原因と対策 ~

フォルダやファイルが文字化けしたときの対応 P.42

- ⇒ フォルダ名破損の場合の原因と対応
- ⇒ USBメモリ取り外しのポイント
- ⇒ 非表示フォルダのバックアップ
- ⇒ 非表示フォルダの表示方法

保護領域のフォーマット P.43

- ⇒ 初期化作業
- ⇒ フォーマット手順
- ⇒ フォーマット形式の選択

フォーマットで使われる用語と意味 P.44

- ⇒ フォーマット形式について
- \Rightarrow FAT32
- \Rightarrow exFAT
- ⇒ NTFS
- ⇒ フォーマットを行う場合の注意事項
- ⇒ アロケーションユニットサイズ(クラスタサイズ)

USBメモリが急に認識しなくなった P.45-46

- ⇒ 現象の確認
- ⇒ デバイスマネジャーの起動
- ⇒ 原因
- ⇒ USBメモリのドライバセットアップで失敗

セキュリティー対策ソフトでファイルが削除される P.47

⇒ セキュリティーソフトでの不具合(avast)

ライセンス登録操作 P.48

フラッシュメモリの寿命 P.49-50

- ⇒ 寿命は正確にはわからない
- ⇒ データの保持期間
- ⇒ フラッシュメモリのエラー
- ⇒ 書き換え回数
- ⇒ 読み取り回数
- ⇒ メモリの種類 SLC/MLC/TCL
- \Rightarrow slc
- \Rightarrow MLC/TLC
- ⇒ 寿命に関する補足情報

~ デジタルコンテンツの販売を考えられている方へ ~

デジタルコンテンツの販売 P.52

- \Rightarrow コンテンツとは
- ⇒ ネット流出のリスク
- ⇒ デジタルコンテンツの製品価値を高める
- ⇒ ブリスターパック

USBケースへのマーキング(名入れ)P.53

- ⇒ 名入れとは
- \Rightarrow ν - ψ - τ - τ + ν ψ
- ⇒ 溶剤系インクジェット印刷
- ⇒ シルク印刷

生産時のコンテンツのコピー P.54

- ⇒ 生産時のコンテンツコピー
- \Rightarrow Windowsのコピー&ベリファイ

利用事例 P.55





動作検証済みのソフトウェアー

■動作確認済みソフトウエア一覧

Adobe Acrobat Reader, Adobe Acrobat std/Pro, Note Pad(メモ帳), Microsoft Excel, Microsoft Excel Viewer, Microsoft Word, Microsoft Word Viewer, Microsoft Access(mdb), Microsoft PowerPoint, Microsoft Power-Point Viewer, Microsoft Publisher, Microsoft Word Mobile, Microsoft Excel Mobile, Microsoft PowerPoint Mobile, Microsoft Edge, Microsoft Internet Explorer, Mozilla Firefox, Opera Internet Browser, Google Chrome, Apple Safari, Windows Media Player, GOM PLAYER, VLC media player, Media Player Classic(MPC-HC), ClickView, Microsoft Paint, Microsoft Word Pad, OpenOffice.org, HWP, JUST一太郎 2008-2014, JUST花子 2008-2014, JUST 三四郎, JW_CAD, Windows Reader, JW_CAD, FileMaker Pro, SumatraPDF (PDF Reader) 等(※1)

■別名保存の禁止機能 検証済ファイル形式

Movie Format	avi, wmv, flv, mp4, mov
HomePage	htm、 html、 mht
Photo/Image File	bmp, jpg, jpeg, gif, tif, png
TEXT File	txt, csv, prn
プレゼンテーション	ppt、pps、odp、sxi、odg、otp
ドキュメント形式	pdf、doc、docx、pdf、odf、docm、odt、sxw、rtf、txt
表計算形式	xls, xlsx, xlsb, xlsm, ods, sxc, xml, csv, txt
Music File	mp3.aac.aiff.wav.wma
Just 一太郎形式	jtd、jtdc、jtt、jttc、odt、jfw、txt、jfw、jvw、jbw、juw、jaw、jtw、jsw、doc、ppt、rtf
Just 花子形式	jhd、jhdc、jth、jthc、jbh、juh、dwf、dxf、svg、ppt、pptx、sxd、odg
Just 三四郎	jsd.jsdc.jst.jstc.jac.jtc.xlsx.xls.123.wk4.wk3.wj3.wj4.ods.txt.csv.slk
CAD形式	pdf.jww.jwc,dwg,dwf,dxf,skp,stp,ste,step,p21,sfc,sxf,igs,iges

【注意事項】

別名保存の禁止機能(※2)は上記確認ソフトウエアー以外では未対応の場合があります。 ※プラグインソフト利用や新しいバージョンでも対応できるようになっておりますが、全ての機能で の動作や保護の確認は行っておりません。



• • • • • • • • • •

※2)別名保存の禁止は、ソフトウェアー の作り方に依存します。Windowsで提供 されている標準的な保存処理を行ってい る場合は対応ですが、トラブル対応など で独自に保存処理を行っている場合は 個別対応する必要があり、検証済みでな いソフトウェアーの場合は別名保存の禁 止機能が働くか確認して下さい。

.







一般的なセキュリティーメモリとの違い

ハイパーセキュリティーはコピーガード機能があります。一般的なセキュリティーUSBメモリとの違いはハイパーセキュリティーは パスワードを知ってる正規ユーザーであってもコピーができないと言う事です。USBメモリはデータを受け渡す場合にも利用されま す。ハイパーセキュリティーはコピーができませんが¥Documentフォルダはコピーができる特別なコピー許可フォルダです。受け 渡しが必要なデータはコピー許可フォルダを使う事ができます。また、既に保存されているデータを見せたくない場合は、1クリッ クで非表示化や暗号化ができます。これらの機能はハイパーセキュリティーのだけの独自機能です。

■既に設定されており解除できない保護機能

- イメージコピー、USBデュプリケーターでの複製禁止
- UNIXやMacなど他OSを使った複製禁止
- コマンドプロンプト(DOSコマンド)を使った複製禁止
- システムで予約されている禁止操作(タスクマネジャーの呼び出し等)
- システムで予約されている禁止プロセス(SnippingTool など)※この制限はバージョンアップまたはリビジョン アップで変更になる場合があります。

■管理者によって有効にできる禁止操作

- 非保護領域の空き容量をゼロにして、ウィルス混入を防 ぐ機能
- 利用前のパスワード画面表示(ユーザーパスワード)
- 設定変更用、管理パスワードの設定
- ファイルコピーの禁止
- 画面キャプチャー(プリントスクリーン)の禁止
- 保存されているコンテンツの修正(上書き保存)
 ACCESSなどのデータベースでも利用が可能です。
- ファイル削除の禁止
- ファイル書き込みの禁止
- ネットワーク共有の禁止
- クリップボード(コピー&ペースト)を禁止
- コピー解除フォルダの設置
- 利用許可ソフトの登録
- 別名保存の禁止
- 印刷の禁止
- 閲覧期限の設定(固定した日付指定)
- 初回利用からの利用回数の設定
- 初めて利用した日から利用日数を設定する
- 制限ユーザーアカウントの利用
- 外国での利用設定(日、英、中、韓)
- インターネットを使った時刻合わせ機能

■製品シリーズ別の特長

ハイパーセキュリティーには、製品シリーズにコンテ ンツガード、ハイパープラスの3商品があります。 同じ機能でもご利用シーンや用途別に処理内容が違 う場合がありますので上位版、下位版の関係ではあ りません。

●コンテンツガード Contents Guard

用途:閲覧専用、コンテンツ配布用 ファイルの追加:不可 コピーガード解除機能:なし 規格:USB2.0 容量:4/8/16/32/64G 材質:樹脂製 ノック式キャップレス(オートリターン機 構) 他モデルあり

●ハイパーセキュリティー Hyper Security

用途:コンテンツ配布用、情報漏えい防止
 ファイルの追加:可能
 コピーガード解除機能:解除コード設定(PC指定)
 規格:USB2.0
 容量:4/8/16/32/64G
 材質:樹脂製 スライド式キャップレス

●ハイパープラス

用途:情報漏えい防止
 ファイルの追加:可能
 ⊐ピーガード解除:解除コード設定、サーバー解除、
 USBtoPCの利用等
 規格:USB3.0
 容量:16/32/64G
 材質:樹脂製 スライド式キャップレス



製品仕様

項目	説明
製品名	Hyper Security USBメモリ ハイパーセキュリティー Ver6
寸法·重量	スライド式 長さ 52.5mm X 幅21.5mm X 厚み9.7mm 重量:8g
材質	樹脂製 ABS樹脂/ポリカーボネイト混合 白
刻印	溶剤系インクジェット
フラッシュメモリ	NAND型フラッシュメモリ PCBA(Printed Circuit Board Assembly)
インターフェイス	USB 2.0 規格 / Aタイプになります。タブレット機などUSB micro-B規格の場合は、変換アダプタ等のご利用 でご利用になれますが利用中に接続が解除される事があり推奨しておりません。また、USB3.0規格でも規格 上はご利用になれますが、100%の互換性がない場合があり推奨しておりません。これらの環境でご利用され る場合は、USB micro-B対応はOTGメモリ、USB3.0はUSB3.0規格のUSBメモリが必要です。延長ケーブルや 変換アダプタをご利用の場合は、通信対応ケーブルをご利用下さい。充電専用ケーブルではご利用になれ ません。
製品保証期間	購入日付より1年間 通常のご使用で製品の不具合があった場合は、同品または同等品との無償交換になります。本体のハード ウェアー部分の保証になります。データの保証はありません。詳しくは、後記「ご利用にあたって」「製品保証 について」もご参照ください。
データ保持期間	約5~10年 ※利用状態により異なる
動作環境	推奨利用温度 5°C~40°C(70°C以上にならない事) 推奨利用湿度 5%~90%(静電気が起きない事、結露が起きない事) ※冬場など静電気でUSB端子でスパークを起こし内部の回路が破損する事故があります。 ※高温の状態での長期利用は寿命が短くなります。
書き換え回数	約1,000~10,000回 ※容量や利用状態により異なる
注意事項	【静電気】強い静電気で内部の部品が破損する事があります。大量にUSBメモリを取り扱う場合は乾燥した 室内を避け帯電防止対策を行って下さい。 【耐水性】なし。本製品を水に濡らさないで下さい。一部、COBタイプ(ミニサイズ)では耐水性のものがありま すが完全乾燥が必要です。濡れたままでの利用はできません。
フォーマット	FAT32
容量	4G~64G ※32G以上は受注生産
対応OS	Windows XP (SP3) 32bit / Windows Vista (SP2) 32bit Windows 7 / Windows 8/8.1 / Windows10 各32bit.64bit ※サービスパックは最終バージョンを適用して下さい。
ファイル容量制限	1ファイル4G以上のファイルは保存できません。 正確には1ファイル4.294,966,784バイトが上限になります。(2^32-512バイト) ※この制限を超える場合はexFATなどにフォーマット可能です。exFATはWindowsXPの標準機能ではサポー トされていません。利用する場合はexFATドライバのセットアップが必要です。
対応していない機能	 ●対応していないOSや機器には対応していません。ご利用できません。 ●コピーガード機能はあくまでローカル使用でスタンドアロン用です。ネットワーク経由のご利用には対応していません。 ●Windows以外のUNIX系、MacなどのOSやフォトフレーム等のデジタル機器には対応していません。 ●部のセキュリティーソフトウエアーの誤検知でのシステムファイル削除や競合があり同時使用はできない場合があります。この場合は当社のサポートまでお知らせください。セキュリティーソフトベンダへ当社サポートより改善申し入れを行います。
製品機能の保証	 ●本製品のコピーガード機能はWindowsの基本操作でコピーができない事を確認しておりますが、全てのア プリケーションソフトや解析手法において絶対にコピーができない事は保証しておりません。 ●別名保存の禁止機能は、全てのソフトウェアーで禁止できる事を確認していません。確認を行っていない ソフトでは、別名保存の禁止が働かない場合があります。 ●USBメモリは書き換え回数やデータ保持期間は無限ではなく寿命があります。Windows ReadyBoostや キャッシュなどそれに類する激しく読み書きを繰り返す様な利用方法には対応していません。キャッシュ利用 や類似する動作のソフトウェアーのご利用は保証対象とはなりません。



はじめての操作

ハイパーセキュリティーUSBメモリ





はじめての操作

基本的な使い方

■保存するだけの簡単操作

ハイパーセキュリティーは、保存されたファイルをコピー ガード機能で保護する事ができます。保存するだけで即座 にコピーが禁止され、ウィルスや盗難・といったリスクを防 げます。<u>使い方はUsbStartを実行してパスワード"1234"</u> (半角、初期)を入力して利用します。

■最初に実行するソフト UsbStart

ハイパーセキュリティーをパソコンに挿入すると、UsbStart があります。UsbStartをダブルクリックして実行して下さ い。Windowsの実行許可画面(UAC画面※1)が表示され ますのでOKで許可します。UsbStartが実行されるとパス ワード画面が表示されますので初期設定されている半角 の数字"1234"(初期パスワード)を入力します。「しばらくお 待ちください」のメッセージが表示されUSBメモリが利用で きるようになります。

UsbStartを実行していない状態や正しいパスワードが入力 されなかった場合は、USBメモリの空き容量はゼロになっ ておりファイルを保存する事はできません。UsbStartの実 行はハイパーセキュリティーでは必要です。UsbStartを使 わないでファイルを保存したり閲覧する事はできません。

■クイックスタートのセットアップ

初めてUsbStartを実行した場合は、UsbQuickStartのセット アップ画面が表示されます。後でもセットアップができます ので、はじめて操作する場合はSKIPボタンをクリックして次 に進んで下さい。(※2)



■保護領域について

ハイパーセキュリティーは、1本のUSBメモリの中に2つの 領域があります。UsbStartを実行してパスワード入力する と表示されるのは**保護領域**です。保護領域に保存された ファイルは全てコピーガードが働きます。

最初に表示されいてる領域は**非保護領域**と呼びます。空 き容量がありませんのでファイルを保存する事はできませ ん。非保護領域に空き容量がないのは、管理ソフトUsb Manageで設定できる「非保護領域の空き容量をゼロにす る」という設定がされているからです。後で解除する事もで きます。ただし、非保護領域は全体で10M程度でシステム で4Mを使っていますので利用できる空き容量は6M程度で す。簡単な説明書PDFは保存できますが大きなファイルは 保存できません。

■非保護領域へ切り替える

ハイパーセキュリティーは印刷を禁止する事ができますが 初期設定では印刷は禁止されていません。機能を変更す る場合は管理ソフトUsbManegeを使います。ハイパーセ キュリティーには色々な機能があります。どのような設定 があるのかを確認する為に管理ソフトUsbManageを実行し てみましょう。

UsbManageは非保護領域のsetupフォルダに保存されてい ます。設定を行う場合は、保護領域になっていると設定変 更ができません。保護領域を表示している場合はTOOL フォルダ内にあるUsbBackを実行して非保護領域を表示す る必要があります。(※3)



ダブルクリックして実行したソフトは許可 してください。この画面はUsbQuickStart

※1)UAC:UserAccountControl

してください。この画面はUsbQuickStart をセットアップすると承認登録されるので 表示されません。

.

ユーザーが意識していないソフトが自動

実行されるのを防ぐWindowsの仕組み。

※2)クイックスタート

UsbQuickStartはUsbStartを自動実行す るソフトです。セットアップするとハイパー セキュリティーがパソコンに挿入されると 自動的にUsbStartを実行しパスワード画 面を表示する事ができます。UAC画面も 表示されません。頻繁に利用する場合 は、UsbQuickStartをセットアップすると便 利です。UsbQuickセットアップ画面は非 表示にする事もできます。

※3)USBメモリの安全な取り外し

USBメモリを取り外して、再挿入すると非 保護領域が表示されます。UsbBackは取 り外しと再挿入をソフト的に行っているソ フトです。

USBメモリを取り外す場合は、USBメモリ 内のファイルが利用中になっていない状 態で安全な取り外し操作を行います。

.



はじめての操作

機能を変更する

■セキュリティー機能を変更する

非保護領域のsetupフォルダにはUsbManageが保存されて います。UsbManageはUSBメモリ内でダブルクリックして実 行もできますが、デスクトップなどにコピーして動作させる 事もできます。配布目的で利用する場合には設定変更を 避けるためにUSBメモリ内にUsbManageは残さないように した方が安全です。UsbManageには管理パスワード "admin"が設定されています。管理パスワードは必ず変更 してください。 でUSBメモリを取り外す場合は、右クリック→取り外し を 行って下さい。ハイパーセキュリティーには付属ソフトに "Usb安全な取り外し.exe"や"UsbRemove.exe"などのソフト が付属しています。このソフトはUSBメモリの取り外しを簡 単にする為の機能です。

注意:頻繁に利用するUSBメモリで、安全な取り外し操作を 行わず、いきなり抜いてしまう等を行っているとタイミング によりファイルの破損やWindowsデバイスマネジャーの保 護機能によりUSBメモリの利用が停止されます。



■コピー許可フォルダ

ファイル許可フォルダはファイルコピーが禁止されている 状態でもコピーができる特殊なフォルダです。 初期状態ではフォルダ名"Document"が設定されていま す。コピー許可フォルダのフォルダ名や利用の有無は管 理ソフトUsbManageで変更できます。



■必ず必要なUSBメモリの取り外し操作

USBメモリを取り外す場合は、取り外し操作が必要です。 取り外し操作を行わないでUSBメモリを抜いた場合は、 USBメモリの管理領域や保存されているファイルの破損な どが発生する場合があります。特に書き込みを行った場合



.

WindowsのBitLookerなどでは、右クリック

でのロック作業が必要な場合がありま

す。また、暗号化を行っている製品では、

暗号化や復号化を手動にしている場合

がありますが、ハイパーセキュリティーで

は全体の領域に対して保護が働くので保

「利用可能ソフトを限定しない」という機能

必須の設定ではありませんが、保存する コンテンツが決まっている場合は、許可ソ

フトを登録した方が安全性が高まります。

例えば、PDFの場合はAcrobatを指定し

ます。フリーソフトの中にはPDFセキュリ

キャプチャーソフトも出回っていますので

許可ソフトでアクセス制限をする方がより

保護領域内から実行されるソフトは許可 ソフトに自動登録されますので通常は設

※USBメモリ内のソフトであっても一定の

制限を回避する為に許可ソフト設定を行

ティーを無視するソフトがあります。 コピーを目的としたコピーソフトや画面

安全性を高める事ができます。

定の必要はありません。

う場合もあります。

はハイパーシリーズの独自機能です。

護設定を忘れる事はありません。

許可ソフトの登録は任意設定です。

※2)許可ソフトの登録

※1)オートロック



はじめての操作

便利な機能

■パスワードのオートロック機能

ハイパーセキュリティーはパスワード画面から始まります。 コンテンツの閲覧や書き込みを行ってUSBメモリを取り外 すとオートロック機能がはたらき、次に使う時には常にパ スワード画面から開始されます。この機能はオートロック 機能と呼んでいますが通常意識する必要はありません。 (※1)

正しいパスワードが入力されるまではコンテンツを見ること はできません。パスワード画面が不要な場合は管理ソフト UsbManageで非表示にする事もできます。パスワード画面 はコンテンツを表示する為のパスワードでコピーガード設 定とは無関係です。パスワード画面を非表示にしてもコ ピーガードは正しく機能します。

■許可ソフトの設定

ハイパーセキュリティーは「利用可能ソフトを限定しない」と いう設定で出荷されています。逆に説明すると、USBメモリ をアクセスするソフトを指定できるという事です。 初期設定では、許可ソフトの制限は設定されていません。 (※2)設定は管理ソフトUsbManageで行います。 例えば、パスワード情報の入ったテキストファイルを保存 する場合、通常はメモ帳やWORDなど色々なソフトで開くこ とができますが、この機能を使うとテキストファイルであっ ても許可されたソフトしかアクセスできない様にできます。

■ファイルコピーの禁止

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、初期設定でファイル コピーが禁止されています。ファイルの追加は常に許可さ れていますので、ドラッグ&ドロップ操作でファイルを保存 すると即時にコピーロックします。ファイルを差し替えるとき は、保存されているファイルを削除して、新しいファイルを 追加してください。データの受け渡しなどで利用する社内 用のUSBメモリとして利用する場合、ファイルコピーの禁止 を解除する事もできます。

■保護USBよりファイルを取り出す

ハイパーセキュリティーは、コピーガード機能があります が、ある特定の条件でコピーガードを解除する事ができま す。例えば、管理者パソコンや特定のパソコンではコピー ガードを働かなくする等です。この機能が必要な場合は 「解除コード」の設定を行います。ハイパーセキュリティー の管理ソフトUsbManageで解除コードを設定する事ができ ます。コピー解除したいパソコンにはUsbQuickStart_Admin で解除コードを設定する事ができます。 USBメモリの解除コードとパソコンに設定した解除コードが 一致した場合はコピーガードが働きません。

この機能は、例えばExcleを自宅で作業する場合、自宅パ ソコンにはデータを残させたくない場合に利用できます。ハ イパーセキュリティーでは、USBメモリ内への保存は可能 ですが、デスクトップなどへ別名保存を禁止する事ができ ます。USBメモリ内へは保存ができますが、USBメモリの外 へ出すことができませんので、会社パソコンの特定パソコ ンで取り出すことができるようになります。会社で利用する 場合、全てのパソコンに解除コードを設定すると会社で利 用する場合はコピーガードが解除されるが、自宅のパソコ ンを利用した場合はコピーガードが働く設定も可能です。

■付属ソフトについて

ハイパーセキュリティーUSBメモリには、いくつかの付属ソ フトがあります。UsbBackなどは設定の際に便利なソフトで すが、実際のコンテンツ配布の際には必ず必要なソフトで はありません。削除可能なソフトもありますので「付属ソフト 一覧」P.13をご確認下さい。

A





はじめての操作

2つの領域と切り替え操作

ハイパーセキュリティーには1本のUSBメモリの中にパー テーションに分かれた領域が2つあります。この領域は保 護領域と非保護領域と呼んでいます。コンテンツは保護領 域に保存します。ハイパーセキュリティーをパソコンに挿入 した時点では、コンテンツが保存されていない非保護領域 が表示されており、正しいパスワードを入力しないと保護 領域を表示する事はできません。



UsbBackを削除する場合

UsbBackは設定するときにあると便利ですが 必須ソフトではありませんので、最終段階で 削除してもかまいません。削除可能なソフトは 次ページ「付属について」(P.11)を参照してく ださい。

ヒント

・設定するパソコンではUsbQuickStartのセット アップを行わない方が設定が簡単です。 UsbQuickStartがセットアップされていると自 動的に保護領域に切り替わるので設定を行う 時にUsbBackが必要になりますが、配布コン テンツに付属させない場合は、UsbBackが無 いので非保護に戻るのが面倒です。 →P.34 UsbQuickStart

・UsbQuickStartをセットアップしていてもユー ザーパスワードを設定していると非保護領域 で一時停止します。この一時停止する動き は、設定やコンテンツ保護でも便利です。 UsbStartを実行した時にパスワード画面が表 示され、正しいパスワードが入力されるとコン テンツ領域が表示された方が違和感が少なく なりますのでユーザーパスワードを設定する 事を推奨しています。

.....

■2つの領域の確認方法

「非保護領域」と「保護領域」は1本のUSBメモリで切り替え て利用されています。どちらの領域が表示されているか は、マイコンピュータのボリューム名で確認します。 USBメモリを挿入すると非保護領域が表示されます。この ときにマイコンピュータでUSBメモリのボリューム名を見る と"USB_MEMORY"になっています。保護領域の時は "PROTECT_USB"になっていますので、どちらになってい るかは、このボリューム名で確認する事ができます。

■非保護領域 → 保護領域へ

ハイパーセキュリティーUSBメモリを挿入したときには、非 保護領域が表示されます。保護領域に切り替える為に UsbStartを実行します。はじめから保護領域を表示させた い場合は、UsbQuickStartをセットアップします。(→P.32)

■保護領域 → 非保護領域へ

コンテンツを保存している保護領域から非保護領域に戻る にはUsbBackを実行します。UsbBackはTOOLフォルダに あります。通常、利用者はコンテンツの入っている保護領 域から非保護領域へ切り替える必要はありません。

UsbBackは設定の際に便利な管理者用のツールです。。 UsbBackはUSBを取り外し再挿入するという動作をソフト的 に行っています。非保護領域へ戻る必要があるのは、<u>保</u> <u>**護設定を行う時には非保護領域になっている必要がある**</u> <u>から</u>です。手動操作でも同じ操作ができますが、はじめて 操作する場合、設定した保護内容や機能を確認する為に 保護領域と非保護領域の切り替えが多くなりますので UsbBackを利用すると便利です。→ヒント参照

領域の切り替え どちらの領域が表示されているのか?



■USBメモリの取り外し

USBメモリを取り外す場合は、"USB安全な取り外し"を実 行します。このソフトは、Windows操作の右クリック→取り 出し の機能を呼び出していますのでWindowsのUSBメモ リ取り外し操作でも同じです。

USBメモリでは、書き込みを行ったときに画面で書き込み が終了しても実際に書き込まれるのにタイムラグがありま す。書き込み中にUSBメモリを取り外してしまうと稀にファイ ルが破損したり、再フォーマットが必要になったりしますの で、ファイルを書き込んだ後は特に注意して下さい。





附属ツール一覧

ハイパーセキュリティーUSBメモリには、幾つかのソフトが付属しています。設定に必要なソフトや配布コンテンツで利用者で使うソフトがあり ます。削除できないソフトはUsbStartのみになります。コンテンツ配布の際に付属されると便利なソフトもありますが、付属させる場合は説明が 必要になると思いますので、付属の有無は任意です。UsbManageは管理ソフトですが、社内配布コンテンツでは付属させる場合もありますが、 通常は設定後に削除します。

付属**ツールの内容**

USBメモリに付属しているソフトの保存場所と機能説明

保存場所	名前	説明	削除可否
非保護領域	UsbStart.exe	保護領域を表示するソフト 非保護領域→保護領域へ切り替えるソフトです。	必須 削除不可
非保護領域/setup	UsbQuickStart.exe	USBメモリが挿入されると自動的にUsbStartを実行する。制限アカ ウントログインでの利用ができます。セットアップされている状態で 実行するとアンインストールします。	任意削除 削除しない事を推 奨しています。
非保護領域/setup	UsbQuicStart_Admin.exe	UsbQuickStartと同じ機能を提供しますが、制限コードを設定する 事ができます。	削除可
非保護領域/setup	UsbManage.exe	各種制限設定を行う管理者ツール	削除可
保護領域	AutoStart.exe	保護領域側のコンテンツを自動的に開くソフト UsbQuickStartがセットアップされていると実行される。Shiftキーを 押しながら実行すると設定モードになります。	削除可
保護領域	Usb安全な取り外し.exe	UsbRemoveを日本語名に変更したもの	削除可
保護領域/TOOL 非保護領域/setup	UsbRemove.exe	WindowsのUSB安全な取り外し機能を呼び出すソフトです。Usbメモ リを取り外す場合に実行します。Windowsの標準操作(右クリック→ 取り外し)で代行できますので削除してもかまいません。	削除可
保護領域/TOOL	UsbBack.exe	保護領域から非保護領域へ切り替えるソフトです。設定を行う場合 は、非保護領域の状態で設定する必要がありますのでUsbBackで 非保護領域へ戻る必要があります。	削除可
保護領域/TOOL	UsbPW.exe	利用者がパスワードを変更する	削除可
保護領域/TOOL	UsbStealth.exe	フォルダやファイルを一時的に非表示にする	削除可
非保護領域	HS.pdf	説明書PDF	削除可



ご利用にあたっての注意事項

●本製品はフォーマットの必要はありません。フォーマットを行うと動作に必要な管理情報が削除されますので注意が必要です。詳しくは「保護領域のフォーマットP.36」についての解説をご参照ください。

● 本製品を電源のついているパソコンから取り外す場合は「ハードウェアの安全な取り外し」操作を行ってください。

正しい手順で取り外されない場合はファイルの破損や次回のアクセスができなくなる可能性があります。

本製品をはじめてパソコンに挿入した場合、Windows標準の大容量ディスクドライバがセットされる為、XPなどのパソコンの 場合は約1分ほど時間がかかる場合があります。しばらくお待ち下さい。(この動作はWindows7以降、新しいWindowsバー ジョンほど待ち時間の改善がされており短くなります。)

ドライバセットアップは初回のみの動作です。2回目以降はこの動作はありません。

ドライバセットアップ中に取り外すと認識ができなくなります。

●パソコン側のドライバセットアップはUSBメモリの個体単位で行われます。同じ種類のUSBメモリでも個体が違う場合は 毎回ドライバセットアップが行われます。

●本製品の保証はハードウエアー部分のみになります。製品の不具合により消失・破損したデータや間接する費用に関しては、当社は一切の責任を負いかねます。

● 本製品を湿気や埃の多いところで長時間使用しないでください。

●お手入れの際には乾いたやわらかい布で軽く拭いてください。本体がアルミ製の場合は、マーキングがレーザーマーキングの為、アルコールなどで拭いても落ちることはありません。本体が樹脂製(プラスチック)の場合は、マーキングが落ちますのでアルコール等、揮発性のクリーナーなどは使わないで下さい。

● キャップありのUSBメモリの場合キャップやUSB接続口の差し込みが硬くなった場合は市販のシリコンスプレーなどの 潤滑油を少量塗って下さい。

● 本製品にはデータの保持期間と書き換え回数に寿命があります。

●パソコン側のUSB接続ロが緩い、または硬い場合があります。無理にUSBメモリを挿入すると接続不良や抜けなくなる 場合があります。そのような場合は他のUSB接続ポートを使用して下さい。

●USB延長ケーブルやUSBハブを経由して接続する場合は発熱する場合があります。この場合、発熱する機器のご利用 は中止して下さい。

●本マニュアルの一部又は全部を配布・流用する場合は当社の許可を得て下さい。

●本製品の部品や仕様は予告なく変更される事があります。

●静電気などの影響で内部電気回路がショートする可能性があります。冬場の乾燥時期などで大量にUSBメモリを取り扱う場合は、イオナイザー(静電気除去装置)の利用や湿度などに注意して静電気対策を行って下さい。

●本製品は耐水製品ではありません。水濡れした場合は完全乾燥を確認してからご利用下さい。濡れたままの状態でご利用された場合は破損します。

●USBメモリとパソコンを接続する場合は、パソコン側のホストコントローラーと通信が行われます。ホストコントローラード ライバがセットアップされています。機種によっては正常にホストコントローラードライバの不具合の影響で動作しない場合 があります。

●本製品はUSB2.0規格です。上位規格であるUSB3.0でも規格上はご利用可能ですが全てのUSB3.0で互換性が100% 補償されている訳ではありません。機種によってはUSB3.0では動作しない事があります。



あなたのビジネスに活用する





あなたのビジネスに活用する

コピーガードUSBメモリの基本動作

■コピーガード機能と活用方法

ハイパーセキュリティーUSBメモリの特徴は、強力なコピー ガード機能がありコピー操作を禁止にできます。有料コン テンツの販売や情報漏えいを防止したい配布物に利用で きます。ハイパーセキュリティーUSBメモリは主に閲覧専用 で使われます。(※1※2)

コピーガードは、ファイルをコピーしようとした操作でエラー が表示されコピーができないというものです。同じ様に印 刷を禁止している場合は、印刷をしようとするとエラーが表 示されます。コピーガード機能はファイルコピーだけではな くスクリーンコピー(画面キャプチャー)の防止や別名保存 の禁止なども行えます。これらの設定は附属の管理ソフト のチェックボックスにON/OFFを設定するだけです。

■一般的なセキュリティーUSBメモリとの違い

最大の違いは、コピーガード機能です。一般的なセキュリ ティーはパスワードを知っている正規ユーザーであれば閲 覧もできますがコピーは出来てしまいます。ハイパーセ キュリティーはパスワード設定の有無に関わらずコピーが できません。これが最大の違いですが、この事以外にコン テンツ販売に必要な様々なサービスが提供されています。

■パスワードの設定

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、管理者パスワードと ユーザーパスワードの2つがあります。管理者パスワード は設定を行う管理者ツールのUsbManageの起動に必要で す。

ユーザーパスワードは利用者がUSBメモリを使う前に表示 されるパスワード画面です。正しいパスワードを入力しな いとコンテンツは表示されません。ここで注意すべきこと は、ユーザーパスワードとコピーガードは無関係という事 です。ユーザーパスワードは、閲覧するかどうかのパス ワードです。つまり、ユーザーパスワードの利用は任意で パスワード画面を表示しなくてもコピーガードは可能です。

■日付や回数の制限

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、利用する日付や回 数を設定する事もできます。例えば、有効期限を1年後の YYYY年MM月DD日としたり、初めて利用した日から30日 間といった設定ができます。また、同じように回数も設定が できます。

例えば、「最大2016年12月31日まで有効」、「利用開始日 から30日間」、「最大10回まで利用」等の複合条件を設定 できます。

日付チェックは通常はパソコンに設定されているカレン ダーを参照していますが、厳密にチェックする場合はイン ターネットをつかった時刻合わせ機能であるNTP Serverで の日付チェックも可能です。(※3)

■外国での利用に関して

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、日本語、英語、中国 語(簡体字)、韓国語に対応しています。設定により自動表 示(初期設定)や固定表示が行えます。固定表示の場合 は、指定言語以外は全て英語表記になります。例えば、日 本語を設定した場合、日本では日本語表示されますが、日 本以外の国で利用した場合は全て英語表記になります。 言語判定はコントロールパネルで設定されている「地域と 言語」で判断されます。

■対応コンテンツと注意事項

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、対応している形式が 豊富です。PDFをはじめOFFICE系の EXCEL,WORD,PowerPointや動画、音楽、プログラム、デー

タベースソフトなど数多くのコンテンツ種類に対応していま す。これは、保存するコンテンツに暗号化などを行っていな い為です。

また、類似のコピーガード製品では、特別なビューワーを 利用してコピーガードを提供している製品があります。 ビューワー方式では、対応しているコンテンツが限定され ます。

ハイパーセキュリティーUSBメモリはアクセスコントロールという方法で動作を抑制しています。ただし、機能の一つである別名保存の禁止機能はソフトウェアーの作り方に依存しています。検証していないソフトでは未対応な場合がありますので注意が必要です。

例えばデータを保存するときに中間形式で保存し、リネームなどで保管するような動きのソフトは個別対応が必要で



イルへの変更保存を許可する事ができま す。Accessなどのデータベースでは、

※1)閲覧専用

します。

データの追加削除が可能です。ハイパー セキュリティーUSBメモリは、コピーガード 中に新規のファイル生成ができませんの でご注意ください。

ハイパーセキュリティーUSBメモリは基本

的には閲覧用のコンテンツを保存・配布

ただし、「書き込み許可」を行うと既存ファ

※2)Hyper SecurityやHyperPlusといった 製品では可能です。

※3)NTP Serverでの日付チェックは任 意ですが、USBメモリを利用するにはイン ターネット接続が必要になります。 NTP Serverの利用が必須ではない場合 は、インターネット接続時以外はパソコン に設定されている日付でのチェックを行 います。



あなたのビジネスに活用する

コピーガードUSBメモリの基本動作

す。MS-OFFICEやAutoCADのようなソフトは、途中でシス テムが異常終了しても修復するような機能をもっているソフ トは一定時間で常に中間形式で保存しています。これらの ソフトの別名保存禁止は個別対応を行っていますので正常 に動作しますが登録リストにないソフトは確認をしてくださ い。(※1)

■自動更新機能

ハイパーセキュリティーUSBメモリでは、新しいバージョン が公開されると自動的にアップデイトできる機能がありま す。自動更新の利用は任意で設定する必要があります。自 動更新を選択しない場合でも手動で更新する方法がありま す。

→UsbManage/起動動作P.29、自動更新機能P.30

■USBメモリを媒体として利用するメリット

USBメモリは小型で大容量(4G~64G)が特徴です。 CD/DVDなどで複数枚必要になってしまう場合でも1本の USBメモリに保存する事ができます。特に32G,64Gクラスの 容量が必要な場合、ダウンロードやパソコン保存でも敬遠 されますのでUSBメモリの優位性があります。USBメモリを メディアとして捉え、コンテンツを配布するメリットは、ライセ ンス管理が単純で解かりやすさも利点に挙げられます。 ー人のユーザーが複数の機種を所有している場合、端末 ライセンス認証では買い替え需要やネットワーク承認など が複雑で面倒です。単純なID/PASSWORD管理では、一つ の組織で複数の人が利用できるので正確なライセンス管 理はできず機会損失も発生します。 USBメモリでコンテンツを配布するメリットは、大容量コンテ

ンツでもストレスなく閲覧ができる事、ライセンス管理の容易さにあります。

■コピーガードの強度

ハイパーセキュリティーUSBメモリのコピーガードレベルは 堅牢で非常に強力です。

パソコン操作であらゆるコピー操作を禁止する以外にUSB メモリの個々の個体認証なども行っていますのでUSBデュ プリケーターや強制的なイメージコピーなどでコピーを行っ ても違うUSBメモリでは動作しません。 ただし、特殊な環境での不具合や新しいソフトウェアーの 登場もあり全てのパソコンで完全にコピーを防止できる事 を保証している製品ではありません。万が一、対応してい ないソフトや現象があった場合は製品サポートまでご連絡 下さい。

当社で確認を行っているコピー防止対策は、Windows操作 でのコピー防止、コマンドプロンプト(MS-DOS)を使ったコ ピーの防止、他のOS(UNIX,MAC)などのコピーの防止、イ メージコピーなどによるコピーの防止、USBデュプリケー ターによるコピーの防止、改ざん検知機能など多岐にわた ります。また、使いずらい点やセキュリティーホールが発見 された場合は、製品のバージョンアップやリビジョンアップ で個々の対策を強化や緩和(※2)をしています。

※1)「別名保存の禁止」はソフトウェアー の作り方に依存する為、個別対応が必要 な場合があります。この為、市場で発売 されている全てのソフトウェアーが対応し ている訳ではありません。ただし、当社で 確認しているソフトウェアーで未対応なソ フトはありません。ご利用ソフトで別名保 存の禁止機能に対応しているかどうか不 明な場合さ製品サポートへお問い合わせ 下さい。特にCAD系のソフトは個別対応 が必要な場合が多いようです。

※2)ハイパーセキュリティーUSBメモリでは制限を強くすると、他に悪影響を及ぼす為、ある程度、制限を緩和しています。 例えば、利用可能なソフトの登録では利用するソフトがバージョンアップしても動作ができるようにしています。

.....



管理ソフトの使い方

UsbManage

管理ソフト名	: UsbManage.exe
保存場所	:非保護領域/Setupフォルダ内
利用場所	:Cドライブなどにコピーして利用する。又は、USBメモリ内から直接起動する。
	※Cドライブから起動する機能はVer6以降の機能
	※保護領域を表示中は設定できません。
管理パスワード	:admin(初期值)





UsbManageはファイルコピーの禁止や印刷禁止など保護設定を 行う管理ソフトです。非保護領域側のsetupフォルダにあります。 UsbManageはUSBメモリ内から直接起動する方法とデスクトップな どCドライブにコピーして実行する方法の2つの実行方法がありま す。

■Cドライブからの利用

UsbManageはUSBメモリ内から実行する方法とデスクトップなどC ドライブ等他のドライブにコピーして使う方法があります。※1

Cデスクトップ等にコピーして利用する場合は、USBメモリ内の UsbManageを削除してから利用してください。UsbManageの機能 の中に空き容量をゼロにする機能があります。空き容量をゼロ にしてからUsbManageを削除すると、UsbManageの容量分がゼロ になりません。※2

管理用パスワード入力 (JP)	×
パスワード(P)	
□表示(\)	
OK ++)ZU	
2	

うファイルに保存できます。設定が終わりましたら設定 レポートで設定情報を残すことを推奨しています。企業 でご利用の場合、担当者が変わったなどの理由で管理 パスワードがわからなくなり、製品サポートへのお問い 合わせが増えています。サポートでは初期出荷状態に 戻す事はできますが管理パスワードを調べる方法はあ りません。

■UsbManagが起動しない場合

USBメモリからUsbManageが実行されなかった場合は、 ハイパーセキュリティーUSBメモリを探して最初に見つ かったドライブを設定します。見つからなかった場合は エラーが表示されます。一度に複数本は設定できませ んので設定は1本づつ行って下さい。設定するときは保 護領域を表示していると設定ができません。

ハイパーセキュリティーUSBメモリのVer6以降の UsbManageは、デスクトップ等、USBメモリドライブ以外 での起動が行えます。Ver5までの古いバージョンの UsbManageは、USBメモリ内からの実行のみです。ハー ドディスクからの実行は、新し機能の為、古いバージョン でハードディスクから実行するとエラーになります。古い バージョンの製品をお持ちの場合はご注意ください。

※新旧どちらのバージョンでも、USBメモリ内からの実 行は可能です。

※1) USBメモリ以外からの UsbManage実行は製品バージョン Ver6以降の新機能です。

.

Ver5など旧バージョンでは、USBメモ リ内からUsbManageを実行する必要 があります。UsbManageは、本体 バージョンとUsbManageのバージョン が一致している場合があります。旧 バージョンと併用する場合はご注意 下さい。

※2)UsbManageは非保護領域で UsbManageで設定をするときは、非 保護領域を表示している必要があし

保護領域を表示している必要があり ます。保護領域を表示しているとき は設定できません。

• • • • • • • • • • •

■管理パスワードの入力

UsbManageは管理パスワードの入力が必要です。初期出荷状態 では(admin)が設定されています。

設定変更には管理パスワードが必要ですがUsbManageがあると 利用者がパスワードを推論しコピーガードを解除されるリスクが発 生します。外部への配布コンテンツの場合はUsbManageを削除し て出荷される事を推奨しています。また、初期値のadminも変更し てください。

UsbManageで設定した内容は管理パスワードも含めUSBメモリの 特殊な領域に保存されUsbManage以外ではアクセスはできません。また、フォーマットで消える事もありません。

上図左下の数字"2"は管理パスワードの入力が間違ったときに表示されるミス回数です。管理パスワードのリトライ回数は最大20回です。回数はパスワード設定画面の不適合ロック回数で変更可能です。管理パスワードを規定回数(最大20回)間違うとパソコンが再起動されるまで許可されません。

ヒント

管理パスワードがわからなくなると調べる方法はありません。 UsbManageの「許可設定」タブメニューに設定レポートボタンがあ ります。設定した管理パスワードを含む内容をUsbSetting.txtとい





■全ての印刷を禁止する(0)

この設定を行うと印刷を禁止することができます。 印刷禁止はUSBメモリ以外のコンテンツ操作にも影響しますの でコンテンツ側に印刷禁止機能がある場合はそれらの機能の 設定を推奨しています。例えば、PDFの場合は、Adobe Acrobat PROなどで提供されているセキュリティー機能で印刷を禁止す る事ができます。

ハイパーセキュリティーでは個別のコンテンツによって印刷禁 止、許可の設定ができません。印刷禁止は許可ソフトウェアで 登録しているソフトウエアーに限定されますが、WindowsEdegが 選択されている場合はすべての印刷が禁止されます。 WindowsEdegはWindows10標準のHTMLブラウザです。USBメモ リにHTMLコンテンツを入れない場合は関係がありません。 ※印刷禁止機能はパソコンの他の操作にも影響します。他の 方法でHTMLで印刷させない方法は、USBメモリ内にHTML閲覧 ソフト(HTMLビューワー)を入れる方法があります。当社では HTMLビューワーでClickViewというソフトをご案内しています。 印刷機能や別名で保存する機能が無いソフトですので印刷禁 止設定は不要です。

■PrintScrnを禁止する(1)

キーボードのPrintScrnボタン(プリントスクリーン)の利用を停止 します。PrintScrnは表示されている画面を他のソフトに画像とし て貼り付ける機能で画面キャプチャーなどとも呼ばれていま す。フリーソフトなどの専用の画面キャプチャーソフト(画像、動 画)も防止したい場合は、「別名保存の禁止設定」P26のPhoto/ Image形式とMovie形式を選択すると防止できます。(※1)

■ファイルコピーを禁止する(2)

保護領域に保存されているファイルのコピーを禁止します。 USB→HDD へのファイルコピーが禁止されます。 HDD→USB へのファイルコピーは禁止されません。※2 ファイルの追加を禁止したい場合は、「保護領域の書き込みを 禁止する」をONにして下さい。

■クリップボードを禁止する(コピー&ペーストの禁止)(3)

コピー&ペーストの操作で利用されているクリップボードの使用 を禁止します。クリップボードとはコピー操作が行われると一時 的にデータを保存できる共有のメモリ領域です。コピー&ペー ストの操作ではクリップボードを経由して他のソフトウエアーへ データをコピーしています。クリップボード機能を禁止するとコ ピー&ペーストの動作が禁止できます。

「PrintSornを禁止する」がOFFの場合で、クリップボードの利用 が禁止されている場合でも画像に関してはクリップボードの利 用が許可されます。



■保護領域への書き込みを禁止する(4)

USBメモリの保護領域へファイルの書き込み・削除を禁止しま す。書き込み禁止にしていない場合は、USBメモリ内のファイル 移動が可能です。

■ネットワークドライブを禁止する(5)

ネットワークドライブでの閲覧を禁止します。通常はONの状態 でご利用下さい。本USBメモリは、スタンドアロンの環境でのみ コピーガード機能が働きます。ネットワーク共有に対応していま せんので端末側のファイルコピー禁止などはできません。例え ば、1本のUSBメモリにコピー禁止ファイルを保存し、ネットワー ク共有で複数の端末で利用を想定している場合です。ネット ワークで共有されたコンテンツに関しては、端末側の制御がで きません。同じように本USBメモリに保存されたHTMLコンテンツ をhttpサーバー(ホームページサーバー)で公開し、ホームペー ジ閲覧者に表示のみでコピー動作を禁止する事にも対応して いません。保護機能はUSBメモリ利用中のパソコンのみに限定 されます。

■Adobe Acrobatのメニューをロックする(6)

Acrobatのメニューをロックします。この機能をONにすると Acrobatのツールバーが表示されない状態で保持されます。再 表示にはUSBメモリを外してから、**F8キー(ツールバーの再表 示)**を押して表示を戻して下さい。



WindowsVista以降、アクセサリメ ニューに画面キャプチャーソフトとし てShipping Toolが附属しています。 Shipping Toolは保護領域表示中は

禁止プロセスとして登録されていま すので起動できません。

※1) Shipping Tool

※2)ハイパーセキュリティーでは、 ファイルの追加は利用者が行えま す。ファイルコピーの禁止は、USBメ モリからデータを取り出す事を禁止し ます。USBメモリへのファイルコピー は禁止されません。

UsbManage/禁止設定2

■コピー許可フォルダの利用(7)

保護領域の"Document"フォルダーに保存されたファイルはコ ピー禁止設定に関わらずコピーができます。この機能を利用 する場合はONにします。説明書などコピーを許可したいコン テンツを保存する事ができます。コピー許可フォルダの名称 は変更できます。

■非保護領域の空き容量をゼロにする(Z)

「非保護領域の空き容量をゼロにする」にチェックを入れ、OK ボタンをクリックしたタイミングで非保護領域の空き容量をゼ ロにします。この機能は、非保護領域側の書き込みを禁止す る為に設けられた機能でウィルス混入リスクを排除します。 USBメモリを媒介にしたウィルス対策はWindowsXP時代からと られており、パソコンのセキュリティーソフトでも十分な対策が とられています。この機能を使わなくてもウィルス感染した事 例はありませんが設定すると更に安心です。

解除するには、チェックを外しOKボタンでUsbManageを一度終 了します。※1※2

■設定レポート作成 (Setting.txtの保存)

設定している内容や動作環境をテキストファイルSetting.txtに 保存ができます。管理パスワードを含む全ての情報が保存さ れます。管理パスワードを忘れた場合は再設定ができなくなり ますので「設定レポート」の保管を推奨しています。製品のサ ポートを受ける場合に「設定レポート」の提出をお願いする場 合があります。

設定レポートは管理パスワードを含むすべての情報をテキス トファイルに保存する機能です。

USB Manage(JP)			×
表示言語	起動動作	日付検査	レスキュー
禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止	パスワード
 禁止設定 全ての印刷: アrintScreen: ファイルコピー クリップボード 保護領域へ 送っドワーク1 Adobe Acrol ゴピー許可了 Document 非(保護領域) 	を禁止する(0) を禁止する(1) -を禁止する(2) :を禁止する(3) の書き込みを禁止する(5) ! たみでする禁止する(5) ! たみでする(5) たまる(5) たみでする(5) たみでの(5) たみでする(5) たまま) たみでの(5) たみでする(5) たみでする(5) たみでの(5) たみでする(5) たみでの(5) たみ たみでの(5) たみ たみでの(5) たみでの(5) たみでの(5) たみ たの(5) たみ たの(5) たの(5) たみ) たみでの(5) たの(5) たみ) たみでの(5) たの(5) た) たの(5) たみ) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) たの(5) た) た た た た たの(5) た) た) たろ た た た た た た た た た た た た た た た	e) (6) (7) (7) 読定	L#-ト
		OK	キャンセル

.

空き容量をゼロにする機能の補足説明

※1)この機能を使う場合は、 UsbManageはデスクトップなどにコピーし てから実行して下さい。USBメモリ内から 実行も可能ですが空き容量をゼロにして から、UsbManageを削除すると UsbManageの容量分空きが発生します。

※2) 旧バージョンとの互換性 空き容量をゼロにする機能はVer6からの 機能です。Ver6付属のUsbManageは、 USBメモリ以外でも実行できるようになり ました。Ver5までのUsbManageは、USBメ モリ内からの実行でしたのでデスクトップ などにコピーしてからの実行ができませ んでした。UsbManageは同じ製品バー ジョン同士で利用します。

•••••



.

※1)実行を許可するソフトを制限しな

い機能はハイパーセキュリティー、ハイ

パープラスのみの機能です。コンテンツ

コンテンツガードUSBメモリは閲覧専用の

コピーガードUSBメモリですので保存する

コンテンツ種類が限定されます。この為、

本来、許可ソフトを限定する事でコピーを

目的としたソフトの利用を制限できますの

で、許可ソフトの個別設定を推奨していま

す。ハイパーセキュリティーでは利用者

がファイルを保存できるように考えられて

いますので許可ソフトを固定化できない

為に設けられた機能です。

ガードUSBメモリにはありません。

この機能は付属していません。

UsbManage/許可ソフトウェア

USBメモリの保護領域をアクセスするソフトを限定する事ができ ます。初期出荷状態では、USBメモリをアクセスするソフトを限 定していませんので、全てのソフトでアクセスが可能です。 許可ソフトウェアーの設定を行うと、コピーを目的としたソフトの 利用を制限する事ができますのでより安全性を高めたり、別名 保存の禁止を許可したソフトのみに限定できるなどのメリットが あります。

■実行を許可するソフト制限しない(※1)

初期出荷状態では「実行を許可するソフト制限しない」という機 能がONになっています。チェックを外すと許可ソフトウェアーの 登録が行えます。

USBメモリに保存するファイルの種類が決まっている場合は、 許可ソフトの登録を推奨しています。保存するファイルが様々で 特定できない場合は、許可ソフトを登録できませんので初期設 定の状態でご利用下さい。

■許可ソフトウェアの登録

この機能は、コピーを目的としたソフトの利用を排除するもので す。未検証なソフトや無条件でアクセスを許可するとコピーでき るリスクが増えます。例えば、PDFでは印刷の禁止設定ができ ますが、フリーソフトのPDFリーダーの中にはPDFセキュリ ティーを無視するものがあります。また、形式変換ソフトでは PDFを読み込みWORDへ変換するソフトもあります。これらのソ フトの利用を防止する為に設けられた機能で必須設定になりま す。

■選択リスト

選択リストのカテゴリを選択すると、そのカテゴリ種類でよく利用されているソフトが表示されます。選択リストにある場合は、 選択リストのソフト名称を選択して[>]ボタンで登録リストに移動します。登録リストから削除したい場合は選択して[<]ボタン をクリックします。各ソフトのバージョンは多くの場合は、無関係です。ただし、JUSTシステム社の一太郎と花子は表示されているバージョンのみ有効です。

■許可リスト

保護領域に保存されているファイルを開く為のソフトを登録しま す。登録できるソフトには上限があり登録数は10以下を推奨し ています。許可リストに設定できる最大の登録数は登録内容に よって変わるめ15~20個程度になります。許可リストに沢山の ソフトを登録する事は適切ではありません。

注意:許可リストには不要な登録は行わないで下さい。保護領域に保存しているファイルがPDFの場合は、Adobe Acrobatを



登録しますが、他のソフトの登録が不要です。保護領域 のアクセスに必要のないソフトを登録すると登録したソフ ト全てに保護制限がかかりますのでパソコン操作に悪影 響があります。

■追加リスト

選択リストにないソフトの場合は「追加リスト」に登録しま す。[追加]ボタンをクリックし許可ソフトを選択します。許 可リストは必ず実行形式名(拡張子が.exe)を登録して下さ い。アドインソフトやスクリプトファイル、DLLなどの場合 は、それらを使う本体プログラムを指定します。

【ヒント】開けないテキストファイルの設定

シリアル情報をテキストファイルで管理する場合、テキス トファイルのアクセスを特定のソフトのみ許可します。 この場合、テキストファイルであっても指定した特定のソ フト以外では開く事ができなくなりますのでメモ帳やエディ タなどでは内容を見る事ができません。 こういったテキストファイルの場合は、ユーザーに見せる 必要はありません。ファイルを見せなくする場合は、拡張 子をつけない、ファイル属性を非表示属性ON、システム 属性ONなどを行うとより安全です。システム属性の設定 は、通常のWindows操作ではできませんので HyperSecurity附属ソフトのUsbStealthを使うか、コマンド プロンプトで実行するATTIRBコマンドなどで設定します。



.

別名保存禁止と許可ソフトウェア登録

※1)別名保存の禁止で「別名保存の禁

止は指定したソフトに限る」の機能を利用

する場合、許可ソフトウェアーとして手動

他に影響がでない様にするには、USBメ

モリ内に保存しているプログラムであって

も許可ソフトウェアーに登録する事を推

別名保存の禁止は指定したソフトに限る

※2)この機能を使わないコンテンツは動

画や画像(写真)コンテンツを配布する場

合です。この機能を使うと、動画キャプ

チャーソフトや画像キャプチャーソフトの

利用を排除できます。設定は動画は

"Movie Format"、写真などは"Photo/

Image File"を選択し、"別名保存の禁止

は指定したソフトに限る"のチェックを外し

"Photo/Image File"を禁止した場合、メー

ル添付で画像がある場合にエラーになり

ますので、コンテンツ説明書などに制限

メール受信でエラーになる場合はUSBメ

モリを取り外してから再受信すると正しい

事項として記載して下さい。

メールが受信できます。

奨しています。

ます。

登録したソフトが対象になります。

UsbManage/別名保存禁止

コンテンツをコピーする方法は、直接ファイルをコピーする方法 以外にソフトの別名保存をする方法があります。別名保存禁止 では、この別名保存を操作を禁止します。

ただし、この設定はメール受信など他のパソコン操作にも影響 しますので慎重に行って下さい。

■別名禁止が必要なソフト

動画再生やビューワーソフトなど別名保存機能を持たないソフ トで閲覧する場合は不要です。別名保存の機能をもっているソ フトを利用する場合にのみ設定を行って下さい。

■選択リスト

別名保存を禁止するファイルの種類を選択します。これは、 USBメモリの保護領域表示中にハードディスクなどに指定した 形式の保存を禁止する設定です。全てのソフトでの保存が禁止 されますので、メール送付で添付ファイルの受信でもエラーが 表示される場合があります。この場合、「別名保存の禁止は指 <u>定したソフトに限る」を選択して下さい。</u>

・映像データの場合は"Movie Format"を登録リストに追加します。

・音楽データの保存を禁止する場合は"Music Format"を登録リ ストに追加します。

・写真や画像データの場合は、"Photo/Image File"を登録リスト に追加します。

・テキストファイル(TXT/CSV)は**"TEXT File**"を登録リストに追加します。

■禁止リスト

別名保存が禁止されているリストです。選択リストより選択して [>]ボタンで追加します。[<]ボタンで解除されます。 登録設 定数には限りがあり全ての項目を登録する事はできません。

■保護領域に保存されている形式のみ禁止(チェックボックス)

保護領域に保存されている形式の別名保存を禁止できます。 登録リストに登録されるものは手動ですが、このチェックボック スは自動で判定します。違いは、このチェックを行った場合、 EXCELなどが保護領域に保存されている場合、EXCEL形式の 保存が禁止されますが、EXCELから出力できるテキストファイ ルは対象になりません。個別で設定する登録リスト設定では、 EXCELから出力できる全ての形式を禁止にします。通常の場合 は、このチェックボックスONと手動で登録リストに加える方法を 推奨しています。

USB Manage(JP)			×
表示言語 禁止設定	起動動作 許可ソフトウェア	日付検査 別名保存禁止	レスキュー パスワード
選択リスト(5) Movie Format HomePage html Photo/Image File TEXT File bx(csv Adobe Acrobat Pf Microsoft VorePf Microsoft Access Microsoft Access Mi	DF oint / Impress OpenOffice Write DenOffice Calc Export (xls/txt)	禁止リスト(E)	
□ 保護領域に除 □ 別名保存の禁.	ほされている形式の1米行 止は指定したソフトに限	₹を禁止する(P) る(L)	
		ОК	キャンセル

このチェックがONになっている場合は、保護領域を表示したときに保存されているファイルを全て検索して自動登録します。 保護領域に保存されているファイル数が多い場合は、UsbStart を実行して「しばらくお待ちください」の待ち時間が長くなりま <u>す。</u>待ち時間は数秒程度ですが、できればこの機能は使わず

に禁止リストに登録する方法を推奨しています。

■別名保存の禁止は指定したソフトに限る

通常はこの機能を有効にして利用する事を推奨しています。 別名保存の禁止対象を許可ソフトウェアーで登録しているソフト に限定します。(※1)

この機能を有効にしない場合は、全てのソフトで指定されてい る形式の保存が禁止され他のパソコン操作に悪影響がありま す。例えば、PDFの別名保存禁止を禁止した場合、メールソフト などでPDFの添付を受信した場合でもハードディスクに保存が できずエラーになります。別名保存の禁止はAcobatReaderなど に限定する方が悪影響は少なくなります。

別名保存の禁止は、保護領域にあるコンテンツの保存を禁止し ている訳ではなく、保護領域にあるファイル種類の保存を禁止 します。この機能を使わない場合は、画像または動画の場合で す。(※2)



.

.

※1) 設定時にUsbQuickStartを設定する

と非保護領域が表示されない為に設定

が面倒です。UsbBackを使えば、非保護

領域に切り替え出来ますが、UsbBackを

削除している場合は、シフトキーを押しな

がらUSBメモリを挿入する等、操作が面

この為、設定が終わるまでは管理者パソ

コンにはUsbQuickStartを設定しない事を

ただし、ユーザーパスワードを設定されて

いる場合は、保護領域を表示する前にパ

スワード入力画面で停止します。この画

面をキャンセルすると非保護領域が表示

されますので設定する場合でも便利で

※設定する場合は非保護領域にしてい

ユーザーパスワードの推奨

倒になります。P.34参照

推奨しています。

る必要があります。

す

UsbManage/パスワード

本USBメモリには「ユーザーパスワード」と「管理パスワード」の 2つのパスワードがあります。ユーザーパスワードは初期設定 では設定されていませんので表示されていません。 ハイパーセキュリティーUSBメモリは、1本のUSBメモリの中に2 つの領域があります。非保護領域と保護領域です。コンテンツ は保護領域に保存しますが、<u>保護領域を表示する為には</u> UsbStartを実行する必要があります。ユーザーパスワードを設 定していると紛失時などにコンテンツ内容を第3者に見られない 事やUsbStartを実行するとパスワード画面が表示され、パス ワードを入力する事でコンテンツが見られるとういう事で UsbStartの実行の違和感が少なくなります。(※1)

■ユーザーパスワード 初期値:なし

UsbStartを実行した時に表示される利用パスワードです。 このパスワードは省略可能で初期設定ではパスワードは設定さ れていません。ユーザーパスワード画面を表示させたくない場 合は、パスワード欄に空白(NULL、何も入力しない)を設定して 下さい。UsbStartを実行したときにパスワード画面を表示させた い場合は、ユーザーパスワードを登録して下さい。

■管理パスワード 初期値:admin

UsbManageで設定を行う時に必要なパスワードです。初期設定 で英字小文字で"admin"が設定されています。 管理パスワードはコンテンツの差し替えや再設定する時に必要 ですので忘れない様にして下さい。もし、管理パスワードがわか らなくなってしまった場合はお客様側で調べる方法はありませ ん。大文字・小文字や半角・全角も関係しますので正しく入力 をして下さい。

■設定条件

ユーザーパスワードを決める場合に、「英数混在」やパスワード 長さ(最長20文字)を指定できます。 ※この設定はユーザーにパスワード変更を許可する場合に必 要です。ハイパーセキュリティーUSBメモリでは、利用者がパス ワードを変更するツールUsbPWが付属していません。 必要な場合は、サポートページよりダウンロードを行うかユー ザーサポートで"UsbPW"を使いたい旨ご連絡下さい。

■不適合ロック回数

不適合ロック数を指定した場合、管理パスワードとユーザーパ スワード入力画面でパスワードを間違った場合、不適合ロック 回数で設定された数に達するとUSBメモリを完全にロックしま す。パスワードの失敗回数のリセットは、UsbManage(左画面)

USB Manage(JP)			×
表示言語	起動動作	日付検査	レスキュー
禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止	パスワード
ューザーパスワー	۴		
設定条件		不適合ロック回数	
□英数混	(E)	使用する(U)	
0 🖨	文字以上	3 🛓	
パスワード()	P)		
E>10	н)		
「管理用パスワート	٢		
	管理用パスワ	ードの変更(A)	
		ОК	キャンセル

のOKボタンをクリックした時と正しいパスワードでログインした ときに毎回リセットします。最大設定数は20回です。 管理パスワードの入力で不適合ロック数を超えた場合は、それ 以降のパスワード入力は可能ですが正しいパスワードを入力さ れても無効としています。管理パスワードで不適合ロックになっ た場合はパソコンの再起動が必要です。

■ユーザーパスワード桁数

ユーザーパスワードを入力します。 登録文字数:0~20文字まで ユーザーパスワードに何も設定されていない場合は、ユーザー パスワード画面が表示されません。パスワード画面不要の場合 はユーザーパスワードを全て削除して下さい。

■パスワードヒント

パスワードを忘れないようにパスワードヒントを登録できます。 ヒントはパスワード入力欄にマウスカーソルを近づけると表示さ れる黄色のチップヘルプに表示されます。任意設定で特に設定 する必要はありません。

■管理パスワード

UsbManageを実行するには、管理パスワードが必要です。初期 値はadminが設定されています。<u>管理パスワードを忘れた場</u> 合、再設定する方法はありません。 禁止設定タブの[設定レ ポート作成]で設定情報を保管して下さい。 パスワード文字数:半角0~20文字まで ※管理パスワードも未設定にできますが、⊐ピー禁止が解除さ れるので何らかのパスワード設定をされる事を推奨します。



UsbManage/言語表示及び 輸出書類について

■外国での利用

本システムでは、マルチランゲージ対応になっており表示する メッセージは外国語で表示ができます。

対応している言語は、日本語、英語、中国語(簡体字)、韓国語 の4つです。自動設定の場合、USBメモリを利用したパソコンの 言語判定をして適切な言語を表示します。設定により英語に統 ーする事もできます。

管理ソフトUsbManageの言語設定と利用者の言語設定では動 きが違います。管理ソフトUsbManageで言語を設定した場合、 かならずその言語で表示します。例えば、日本語を設定した場 合、中国のパソコンで設定をした場合でも日本語で表示しま す。利用者の表示を日本語にした場合は、日本語Windows以外 は全て英語表示になります。

※1) 暗号化の廃止

Ver3までは、保護領域全体が特 殊なフォーマットをされており、且 つ、保存コンテンツは暗号化処理 がされていました。Ver4以降の現 行バージョンは、暗号化処理を 行っておらずフォーマットも標準的 なFAT32を採用しています。これ は、アクセスコントロール自体が 強力でコピー報告の事例が無 かった事や暗号化をしている事の 制限を緩和する為に解除されたも のです。

※2)輸出規制対象

軍事転用の可能性のある物品や 技術はキャッチオール規制とリス ト規制の2つの輸出規制がありま す。

キャッチオール規制:軍事転用の 可能性のある機器 リスト規制:キャッチオール以外で 物品リストで規制されている物 上記2つの規制に該当しない場合 は「非該当」です。

■自動設定と言語指定の違い

通常は自動設定"auto"を選択します。これは利用するWindows の地域情報で自動切り替えを行い適切な言語で表示します。 例えば、日本国内で利用する場合は日本語で表示され、中国 での利用は中国語で表示されます。同じUSBメモリを韓国で利 用する場合は韓国語で表示されます。それ以外の国は全て英 語表示になります。

利用者の表示言語を指定した場合は、優先する表示言語の表示になり、それ以外の国では全て英語表示になります。 例えば日本語を選択した場合は、日本国内で利用する場合は 日本語で表示されますが、日本語Windows以外では英語メッ セージが表示されます。

■管理者用と利用者用の表示方法の違い UsbManageの言語表示は違う

表示言語は管理者用(UsbManage)と利用者用(UsbStart)の2種 類の設定ができます。2つの言語設定は動作に違いがありま す。利用者用の言語設定は、指定した言語のWindows以外で は英語表示になりますが、管理者用の言語設定の場合、指定 した言語を無条件で表示します。この時、指定した言語フォント がパソコンにセットアップされていない場合は、正しく表示され ず文字化けになります。この場合、コントロールパネルの言語 設定で対応する言語パックのセットアップが必要です。

UsbManageの言語設定は、強制指定でWindows地域情報には 左右されません。パソコンに言語ファイルが設定されていない 場合は文字化けしますので英語などに切り替えてください。



■非該当証明書(輸出書類)

鍵長512bit以上の暗号化製品など軍事転用可能な高度な情報 化技術の製品を海外に輸出する場合、政府の許可が必要な場 合があります。本製品は暗号化を使っておらずアクセスコント ロールでコピーガードを行っており規制対象の製品ではありま せん。(※1)

輸出する場合、輸出規制の対象ではない事(※2)を証明する 為に税関または国際貨物取扱業者(フォワーダー)に「非該当 証明書」の提出を求められる場合があります。

※ハイパーセキュリティーUSBメモリは、お客様でコンテンツを 保存するメディア(入れ物)です。保存するコンテンツが一般流 通される市販のコンテンツや通常のデータ形式であれば問題 はありませんが、高度な暗号化を行うソフトウェアーや軍事転 用可能な規制対象の設計図を保存して輸出する場合は「該非 判定書」(パラメタシートや項目別対比表)に基づき確認や申請 が必要になります。

※自己使用での海外輸出は規制対象外です。

※規制内容につきましては産業経済省や安全保証貿易情報セ ンター (CISTEC)シーテックにご確認下さい。

※ハイパーセキュリティーUSBメモリをそのまま輸出する場合は 以下の「非該当証明書」をご利用下さい。

http://www.abroad-sys.com/USB/Export_document.pdf http://www.abroad-sys.com/USB/Export_document.doc

輸出入の際に必要な国際的な分類番号(HS⊐ード)は以下の番 号になります。

HSコード:8523.51.000 不揮発性半導体記憶装置



UsbManage/起動動作

UsbStartを実行したときの動作設定を行います。

■初回起動時にUsbQuickStartのセットアップ画面を表示する。 (初期値ON)

始めてUSBメモリを利用する場合に、UsbQuickStartのセット アップ画面が表示されます。UsbQuickStartは任意セットアップ ですが、設定すると本USBメモリの利用がWindowsに登録され Windowsのセキュリティーの実行確認画面(UAC)が表示されな くなります。また、Usbメモリが挿入されると自動的にUsbStartが 実行されますので、USBメモリを挿入すると直ぐにコンテンツを 表示できるようになります。この設定はその設定画面を表示の 有無を指定できます。UsbQuickStartはsetupフォルダにありま すので手動セットアップも可能です。また、ユーザーパスワード を表示している場合は、パスワード入力画面からでも設定がで きます。

■起動時に利用回数、利用日数の表示を行う

回数制限や利用日数の設定を行った場合は、あと、どのくらい 利用できるのかを保護領域切り替え中の画面で表示していま す。ただし、Winodws8以降のパソコンでは保護領域の切り替え が早く表示が一瞬の為、メッセージが読めない場合がありま す。利用制限をはっきり明示したい場合はこの設定をONにする と「利用期限のお知らせ」を表示して確認画面を表示し応答が あるまで一時停止します。



■UsbStartの実行回数を指定する

利用回数を指定できます。指定回数を過ぎると保護領域のコン テンツを表示する事ができなくなります。回数リセットは、管理ソ フトのUsbManageを起動し[OK]ボタンをクリックします。

USB Manage(JP)			×
禁止設定	許可ソフトウェア 起動動作	別名保存禁止	パスワード
表示言語 グ 初回起 し 起動時 し いちち の し いち い の し い い い い い い い い い い い い い い い い い	(記事)(1) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2) (2	ロ10 快重 セットアップ画面を表示(s (を表示する(C) 5(T)] 5(D))
☑ 自動更	新チェック(A)	ОК	キャンセル

■UsbStartの実行日数を指定する

始めての利用から利用できる日数を指定できます。指定日数を 過ぎると保護領域のコンテンツを表示する事ができなくなりま す。開始日のリセットは、管理ソフトのUsbManageを起動し[OK] ボタンをクリックします。

■利用有効期限を設定する

実行日数の指定は初回利用日からの日数指定でしたが、利用 有効期限設定は固定の日付指定です。実行日数と利用有効期 限は併用でき期限の近い日付を制限月日として表示されます。

■自動更新チェック

自動更新とはUsbStartなど、ハイパーセキュリティーのシステム ファイルが更新した場合に自動で更新できる機能です。この チェックをONにした場合で新しいパージョンが公開されている 場合は、確認画面が表示されます。

Contents Guard Ver6.0	\times
更新可能	
現在のバージョン: 6.0.0 最新のバージョン: 6.1.0	
更新して新しいバージョンをご利用いただけます。	
更新(U) キャンセル	



自動更新機能

自動更新は任意設定です。通常は自動更新チェックはONを推 奨しています。ただし、利用者によりバージョンや操作に差が生 じる事を避けたいときや配布コンテンツが新しいWindowsバー ジョンに未対応な場合は自動更新チェックはOFFにする場合が あります。

自動更新は、アブロードシステムズ社のホームページからダウ ンロードされ適用されます。お客様が独自にバージョン管理をさ れたい場合にも対応しています。この場合は、当社の製品サ ポートか営業担当までご相談下さい。更新プログラムは使用許 諾権や商品名など一切の文字情報をお客様側でカスタマイズ できるように作られています。この場合、お客様のホームページ に更新プログラムを設置する必要があります。

■自動更新チェック

自動更新とはUsbStartなど、ハイパーセキュリティーのシステム ファイルが新しく公開された場合に自動で更新できる機能で す。このチェックをONIこした場合で新しいバージョンが公開され ている場合は、確認画面が表示されます。 更新チェックはパソコンがインターネットに接続されている必要 があります(※1)。インターネットに接続されていない場合は、 キャンセルされ次回の起動まで延期されます。

自動更新は毎回確認する訳ではありません。1度バージョン確 認を行った場合は30日間はチェックを行いません。直ぐに確認 を行う場合は、手動の更新操作を行ってください。

**1)更新確認とダウンロードは通 信ポート(80番,http)で行われます。 インタネットルーターでは、必要な 通信サービス以外を禁止する設定 ができますが、多くの場合、ホーム ページ参照(ポート80番)は許可さ れていますので、ホームページが 閲覧できる環境であれば自動更新 が可能です。

※2)空き容量をゼロにする設定を している場合は、若干更新時間が かかります。

.

更新時間はダウンロードを含め国内で適用する場合は10~2 0秒程度です。インターネットの回線速度や設定(※2)により多 少差があります。

■手動の更新操作

自動更新チェックがOFFの場合でも更新することができます。 UsbStartを実行するときにシフトキーを押しながら実行すると無 条件で更新確認を行います。

シフトキーを押しながらUSBメモリの挿入やUsbStartを実行する とバージョンの確認以外に以下の動作を行います。

- UsbQuickStartの自動実行機能をキャンセルする。
 UsbQuickStartのセットアップ画面を表示する。
- 3. バージョン検査を即時に行う。



■バージョンとリビジョン バージョンはAA.BB.CCの数字です。 Version 6.0.0

AAの最初の数字は新しいOS対応など大幅な機能アップがあった場合に変更になります。

BBとCCはリビジョンアップといいます。大きな機能差はありま せんが不具合対応や小さな追加機能が変わったときに変更に なります。大きなバージョンアップは1~2年単位ですが、中間 的に公開しているリビジョンは2~4回/年程度です。 例えば、コンテンツがPowrePointやExcelの場合、従来は WindowsStoreアプリでフリーソフトとして公開されている PowrePoint MobileやExcel Mobileに対応できるようになったな どはリビジョンアップで公開します。(Ver6ではPowrePoint Mobile、Excel Mobile、Word Mobileに対応しています。旧バー ジョンのVer5ではこれらのWindowsStoreアプリのOfficeソフトに 対応していません。)

CCは機能に変更はありませんが不具合対応などの場合に変 更になります。たとえば、ある特定の機種で動作ができないな どが対応した場合はCCが変更になります。

リビジョンアップの内容は、例えば、特定のパソコン環境でエ ラーが表示される事を改善する、付属ソフトの機能アップ、エ ラー番号表示をわかりやすいメッセージに変更するなどの変更 です。



UsbManage/日付検査

日付検査ではNTPという仕組みを利用して厳密に日付をチェッ クできます。閲覧期限、利用日数などを設定した場合、通常は パソコンの内蔵タイマーの日付でチェックされます。パソコンの 日付は変更が可能な事やWindowsXPなどのパソコンの場合、 自動の日付合わせが設定されていない場合があり正しく日付 検査を行う事ができません。

試用版コンテンツなどの配布などで、それほど日付を厳密にし なくても良い場合はNTP検査は行わない方が自由度が高くなり ます。例えば、30日間試用制限のコンテンツを貸し出した場合、 あと数日試用を延期したい旨、相談があった場合は一時的な 対応として日付変更での回避をご案内する事ができます。

■NTPとは

NTPとはNetwork Time Protocol(ネットワーク・タイム・プロトコ ル)の事でインターネット上で日付や時刻を合わせる仕組みで す。Windowsパソコンでは既にNTPによる時刻合わせが行われ ています。

■インターネットを使った厳密な日付検査を行う

NTPチェックを行う場合はONにします。 利用日数の制限が必要でない場合は、OFFにしてください。

■NTP Serverの設定

NTPサーバーがメンテナンスなどで通信ができなくなる場合に 備えて2つのNTP Serverを設定します。

初期値では以下の2つが設定されています。

国立研究開発法人情報通信研究機構 ntp.nict.jp
 マイクロソフト社 Time.windows.com
 通常は変更の必要はありませんが外国等の利用が前提の場合は、その国のNTP Serverを設定した方が応答が早い場合があります。通信インフラが整っていない国でのご利用は変更をして下さい。

■NTP検査を必須とする

厳密な日付チェックが必要な場合はONにします。 NTP検査を必須とした場合は、このUSBメモリを使う実際の利 用者にインターネットでの起動承認を行っている旨、明示する 必要があります。このチェックがOFFの場合は、インターネット通 信が可能な状態のみ日付検査を行います。インターネット通信 ができない場合はパソコン内臓タイマーでチェックします。 NTP検査を必須とした場合、インターネット接続が必須条件にな



りますのでご注意ください。インターネットに接続されていない 場合はコンテンツを見ることができません。

NTP Serverに接続できない場合は、UsbStartを実行すると以下 のエラーメッセージが表示されます。

「インターネットに接続ができません。NTP Server Error」

■NTPテスト

NTPサーバーの設定を変更した場合は、テストボタンをクリック すると即時テストを行います。正しく検査が行える場合は"OK" が表示されます。通信ができない場合は"NG"が表示されま す。



※1)ETRON問題

ETRON社製USBホストコントローラ

(EJ168)を搭載しているパソコンでは本

製品のご利用ができません。これは、

EJ168がUSB3.0規格どおりに作られて

いない事が原因です。ETRON社から対応したドライバーが公開されています

が、対応したドライバに変更してもハー

ドウェア設計に問題がある為、完全に

は改善されずUSBメモリの認識や動作

USBホストコントローラは、多くのマザー ボードで採用されていた為、パソコン

メーカーや型番が特定できません。この

為、本製品側で対応処理を設けました。

("Information Error"が表示される)場

合やUSBメモリの認識に1分程度かか

る場合は、該当チップの可能性がありま

すのでUSB2.0インターフェイスポート

(黒色のUSB接続口)をご利用下さい。

ETRON社のホストローラーコントローラ

でもWindows8以降が搭載されているパ

ソコンでは規格通りのUSB3.0部品が採

用されてる為、上記問題は発生いたし

ません。

USB3.0の接続口で動作できない

が極端に遅くなります。ETRON社製

UsbManage/レスキュー

レスキュー機能は、ハードウェア障害や別名保存の禁止を一時的に解除する場合に使います。レスキューコードは管理パスワードと パソコン毎に生成されるマシン番号の組み合わせで生成されるコード番号です。管理パスワードが同じUSBメモリがあれば他のUSB メモリでも生成ができます。この機能は一部のパソコンで採用されているUSB3.0規格のインターフェイス(青色のUSB接続口)が USB3.0規格で作られていない場合があり、これらのパソコンでも利用できるように配慮された機能です。

■レスキューコードが必要な場合

1. USB3.0規格の接続口を使った場合で"Information Error"が 表示される場合(※1)

2. 別名保存の禁止が設定されているとデスクトップなどに保存 ができません。レスキューコードを入力すると一時的に保存を 許可する事ができます。

 外部利用禁止のUSBメモリで一時的に許可する場合 (HYPER+)

■Information Errorの強制回避

USBメモリの個体情報検査を無効にします。この機能は、該当 パソコン(※1)をご利用の場合にだけ利用しますので通常は OFFの状態でご利用下さい。ONでご利用の場合は、個体情報 検査が無効になりますのでセキュリティーが弱くなります。

UsbStartを実行したときにInfomationErrorが表示される場合が あります。これは、USBメモリの個体番号承認でエラーになって いる場合に表示されます。通常は、特殊な方法でUSBメモリの 情報を他のUSBメモリヘコピーした場合に表示されるエラーで す。ETRON問題(※1)でも同じエラーが表示されますので、こ の場合はUSB2.0規格の接続口をご利用になるか、個体情報検 査を無効にして下さい。

■マシン情報

上記の「レスキューコードが必要な場合」は、エラー画面が表示 されます。エラー画面には、"AX-"から始めるマシン番号が表 示されていますので、このマシン番号を入力する事でレス キュー番号が生成できます。レスキュー番号はパソコン単位に 生成されますので、個別に必要です。 マシン番号は"AX-12345"などの形式になります。

■別名保存禁止をレスキューコードで解除する

別名保存の禁止を行っている場合、デスクトップなどへは保存 が禁止されていますが、USBメモリへの保存は許されていま す。Excelなどのファイルを開いてデータ入力を行っている場 合、USBメモリを取り外す前に保存が必要です。保存前にUSB メモリを取り外してしまうと保存ができなくなってしまうからです。

レスキューコードを入力すると別名保存の禁止を一時的に解除 する事ができますので、デスクトップなどに保存を行う事が出来 ます。この機能を利用しない場合は、「別名保存禁止をレス

USB Manage(JP)			×
禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止	パスワード
表示言語	起動動作	日付検査	レスキュー
Infomation	Errorの強制回避/USE	3.0エラー対策の有効化	.(N)
マシンコード			
178-1718			
1-L-1+XV			
1年成			
1.673772-	r aumin (2319.917.44)	1-1-1-11	
□ 別名保存券	き止をレスキューコードでi	解除する <mark>(</mark> D)	
		ОК	キャンセル

キューコードで解除する」のチェックボックスをOFFにして下さい。

■製品別のレスキュー機能

レスキュー機能は、ハイパーセキュリティー、ハイパープラスの 機能です。コンテンツガードUSBメモリにはレスキュー機能はあ りません。USB3.0やUSBメモリへのファイル保存機能はハイ パーシリーズのみの機能です。



UsbManage/製品情報

製品情報登録はエラーなどが発生した場合に表示するサポート先の情報を登録します。登録は任意で初期値ではアブロードシステムズのサポート情報が登録されています。製品情報が表示される画面は、UsbStartを実行したときに「しばらくお待ちください」と表示されるスプラッシュ画面とUsbStart実行直後に表示されるUSBメモリの個体承認エラー(Information Error)が表示される画面です。

• • • • • • • • • • •

※1)スプラッシュ画面

スプラッシュ画面とは、ソフトが起動する までに表示される画像や製品情報の事 です。ソフトの起動準備中という事を操 作している人に明示する目的で表示さ れます。表示されている時間は数秒か ら数十秒ですが、パソコン性能や Windowsのパージョンによって変わりま す。USBメモリの認識が速いWindows8 以降は表示時間が短くなります。スプ ラッシュ画面が表示されてる間は操作 ができません。

■著作権者、コンテンツ名、連絡先の登録

この製品情報登録は、UsbStart実行時の初期画面(スプラッシュ画面※1)で表示する事ができます。 初期値では右図のように設定されていますが有料コンテンツを 販売される場合は、修正して登録をしてください。 著作権者、コンテンツ名、連絡先

UsbStartを実行したときに表示される「しばらくお待ちください」 のスプラッシュ画面に製品情報を表示させたい場合は、「起動 時に製品情報を表示する」にチェックを入れます。

■エラー表示 Information Error

ここで登録された情報は、UsbStart実行時の初期画面でも表示 されますが、USBメモリの物理的なエラーの場合にエラーメッ セージ画面にも表示されます。ただし、物理的なエラーメッセー ジはUSB.3.0規格のUSBメモリで見られる現象で通常のコンテン ツガードUSBメモリはUSB2.0規格ですのであまり表示される事 はありません。表示される場合は以下のとおりです。 ※物理的なコピーを行った場合 USBメモリをイメージコピーなどで他のUSBメモリへ複製した場 合。固体番号認証を行っていますので同じ種類の他のコンテン ツガードUSBメモリへ複製した場合でも表示されます。 ※一部パソコンのUSB3.0規格で作られていない部品をUSB3.0 として販売されていた事例があります。この場合、USB2.0の接 続口であれば動作しますが、コンテンツガードUSBメモリが USB3.0でパソコン側が対象の規格外のUSB3.0の場合はハード ウェアーエラーになりエラーメッセージが表示されます。コンテン ツガードUSBメモリUSB3.0は特注対応になりますので標準品は USB2.0で出荷されています。

該当機種 ETRON EJ168 を採用しているマザーボード

禁止設定 許可ソフトウェア 別名保存禁止 パスワード 表示言語 起動動作 日付検査 製品情報 着作権者 Abroad Systems, inc フンテンツ名 コンテンツガードUSBメモリ 連絡先 http://www.abroad-sys.com こ こ 二起動時(こ製品情報を表示する①)	USB N	lanage(JP)			×	
表示言語 起動動作 日付検査 製品情報 著作権者 Abroad Systems, inc コンテンツ名 コンテンツガードUSBメモリ 連絡先 Ittp://www.abroad-sys.com E-Mail info@abroad-sys.com こ和助時(c製品情報を表示する①)	4	禁止設定	許可ソフトウェア	別名保存禁止	パスワード	
著作権者 Abroad Systems, inc コンテンツガードUSBメモリ コンテンツガードUSBメモリ 道給先 Inttp://www.abroad-sys.com E-Mail info@abroad-sys.com 二起動時(に製品情報を表示する①)		表示言語	起動動作	日付検査	製品情報	
 」フテンツガードUSBメモリ 連絡先 http://www.abroad-sys.com E-Mail info@abroad-sys.com 一起動時に製品情報を表示する(2) OK キャンセル		著作権者 Abroad Syst	ems, inc			
連絡先 http://www.abroad-sys.com E-Mail info@abroad-sys.com 一起動時に製品情報を表示する(2) OK キャンセル		コンテンツガー	-ドUSBメモリ			
http://www.abroad-sys.com E-Mali info@abroad-sys.com 一起動時に製品情報を表示する(2) OK キャンセル		連絡先				
 記動時(c製品情報を表示する①) OK キャンセル 	http://www.abroad-sys.com E-Mail info@abroad-sys.com					
OK キャンセル		□起動時(こ	製品情報を表示する①			
				ОК	キャンセル	

Contents Guard Ver6.0	×
しばらくお待ちください。	
Abroad Systems, inc. Contents Guard USB Memory Ver6 http://www.abroad-sys.com E-mail info@abroad-sys.com Contents Guard Ver6.0	



UsbQuickStart



UsbQuickStart

UsbQuickStartは、ハイパーセキュリティーUSBメモリを使いやすくする為のソフトウェアーでセットアップするとパソコンに常駐します。 UsbQuickStartは、とても小さなプログラムで他のパソコン動作に影響がないように配慮されています。USBメモリが挿入されるとUAC 画面を表示せずに自動的にコンテンツを表示でき便利です。UsbQuickStartがセットアップされているパソコンではUSBメモリからソフ トを実行するとWindowsセキュリティー機能がはたらき実行の確認画面が表示されます。これはウィルスの自動実行を防止する機能 でUACと呼ばれています。(UAC:ユーザーアカウントコントロール)ハイパーセキュリティーUSBメモリは、ファイル書き込みを禁止する 事ができますので自動感染、手動感染を問わずウィルスを書き込む事ができません。

■UsbQuickStartのセットアップ

UsbQuickStartは、最初に実行したときに表示される「自動起動 のセットアップ」画面で設定します。

Contents Guard Ver6.0	×
【 自動起動のセットアップ 】 UsbQuickStart Set 次回から自動起動を行うためにクイックスタート機能 します。よろしいですか? ※管理者権限が必要	up 皆をセットアップ です。
SETUP	
□このメッセージを表示しない。 (再表示:Shiftst	~一起動)
□バージョンチェック 6.0.0	

この画面は、UsbManageで非表示にする事もできますので表示 されない場合があります。また、「このメッセージを表示しない」 にチェックを入れると表示されません。

この画面の[SETUP]ボタンをクリックすると、setupフォルダの UsbQuickStartを実行しますので、直接UsbQuickStartをダブル クリックして実行する事もできます。

■UsbQuickStartで追加される拡張機能

UsbQuickStartは任意設定ですが、セットアップすると以下の拡 張機能が追加されます。とても小さなソフトで他に影響を与える 事はありません。セットアップする事を推奨しています。

- 1. 制限ユーザーアカウントでの実行
- 2. ユーザーアクセスコントロール画面の非表示
- 3. UsbStartの自動実行(はじめから保護領域を表示)

[はじめから保護領域を表示する]

UsbQuickStartをセットアップしているパソコンではUSBメモリが 挿入されると自動的にUsbStartが実行されコンテンツが保存さ れている保護領域が表示されます。

[Windows UAC(User Account Control)]

UsbStartなどを実行した場合、ユーザーアカウント制御により実 行許可画面(ユーザーアクセスコントロール:UAC)が表示されま す。UsbQuickStartをセットアップすると煩わしいWinodwsセキュ リティーの実行確認画面(UAC)が表示されません。

[制限アカウントの実行(標準ユーザー)]

大きな組織でパソコンが使われている場合、利用者が勝手にソ フトをセットアップしたり、許可がないソフトを実行できないように 制限ユーザーが設定されている場合があります。この場合、 UsbQuickStartのセットアップが必須になります。セットアップし ていない場合は本USBメモリを利用する事ができません。 UsbQuickStartの実行は管理者権パスワードが必要なので、 セットアップする場合はシステムの管理者に相談して下さい。 ※制限アカウントはWindows7以降「標準ユーザー」という名称 になっています。

■UsbStartの自動実行をキャンセルする

 ①自動実行はUsbStartという名前を自動実行しますので
 UsbStartを選択し右クリック→「名前の変更」を選び"Start"など 違う名称に変更します。

②一時的にUsbStartの自動実行をキャンセルしたい場合は、シ フトキーを押しながらUSBメモリを挿入します。

■UsbQuickStartをネットワークから実行する

/N オプションをつけて実行するとメッセージ画面を表示しません。コマンドプロンプト画面やネットワークを使ったオンライン セットアップで利用できます。

UsbQuickStart /N

※/Nオプションをつけた場合は、メッセージファイルが不要なのでハードディスクから実行も可能です。

■UsbQuickStartのアンインストール

UsbQuickStart は、セットアップしているパソコンで、もう一度実 行するとアンインストールします。

※必ずUSBメモリ内から実行して下さい。ハードディスクから実 行した場合は、メッセージファイルが無いのでガイダンスなどの 文字が表示されません。



UsbStealth (Usbステルス)



データを隠す(非表示化)

UsbStealth(USBステルス)

TOOLフォルダのUsbStealthを実行すると保存データを見え なくする事ができます。

USBメモリを貸し出す時に、相手に見せたくないデータを削除するのは面倒です。UsbStealthを使うと1クリックで一時的に見せなくする事ができます。復元も1クリックで簡単です。 データファイルを見えなくする処理と同時にファイル名やフォルダ名の暗号化も行っていますのでより安心です。



■UsbStealthの実行方法

保護領域のTOOLフォルダにあるUsbStealthを起動します。 起動パスワードを設定する事もできます。ファイルを見えなくし た後にUsbStealthを削除すると復元を防止する事ができます。 UsbStealthを削除する場合は、コピーガードを解除してコピー バックアップをとっておきます。

※UsbStealthのバックアップをとらずに削除してしまった場合 は、製品ホームページのサポートページからダウンロードする 事ができます。UsbStealthはハイパーセキュリティーでのみ動 作しますので一般的なUSBメモリでは動作しません。

■ステルスONボタン(見えなくする)

クリックするとファイルやフォルダの非表示化を行います。

非表示化を行ったあとにファ イル名の暗号化を行います。 非表示化されたあとに追加さ れたファイルは非表示化され ません。保存されているファ イル数が多いと処理時間が かかります。



DocumentフォルダやUsbStealth本体は非表示化されません。

■ステルスOFFボタン(元に戻す)

非表示ファイルを元の状態に戻します。 OFFボタンを1クリックすると 非表示化されているデータを 復元します。ファイル数が多 い場合は、復元に時間がか かります。



オプション機能

Optionボタンをクリックするとオプション機能が表示されます。

■「Stealth MAC/UNIX」

この機能はマッキントッシュ * UubSteatth Vier 20 やUNIXなどWindows以外の OSからファイルを見せなく する機能です。保護領域は Windowsしかアクセスが出 来ないのでこの機能は使い ません。この機能は、非保 護領域で非表示にしたい ファイルを作成する場合に 必要なオプションです。



■Encryption(暗号化オプション)

通常はONの状態で利用します。ファイルを隠した状態でファイ ル名やフォルダ名が暗号化されます。

データを見えなくする機能は、ファイルに対して非表示属性を設 定しています。非表示属性が設定されているファイルは、 Windowsの通常の状態では表示されていないだけで消えている 訳ではありません。パソコンの設定によっては表示する方法も 存在しています。非表示ファイルを見える状態にしてもファイル 自体の暗号化を行えばファイルを閉く事ができません。しかし、 暗号化を行った場合はアクセスができなくなりますので非表示 状態でもユーザーソフトなどでアクセスが必要な場合は、暗号 化オプションをOFFICします。

※削除されたくないデータファイルなどは非表示化する方が安 全ですが、暗号化オプションをONの状態ではファイルをアクセ スできません。



データを隠す(非表示化)

Password

UsbStealthの起動パスワードを設定する事ができます。 Optionボタンをクリックしてオプション画面を表示します。 Passwordボタンをクリックします。

Reassword Setting		×
Password		
	ОК	

パスワードを設定するとUsbStealthを起動するときにパスワード 画面が表示されます。何も設定されていない場合はパスワード 画面は表示されません。

復元をされないようにする方法は、パスワードを設定するかファ イルを見えなくした後にUsbStealthを削除します。UsbStealthを 削除した場合は、あらかじめバックアップしてあったUsbStealth を戻してから復元を行います。

Select Target file

名前	種業員	サイズ	日付
2 Decument	File Felder	5150	2015/10/27
Z TOOL	File Folder		2015/10/27
System Volume Information	7z/II.	1 KB	2014/04/23
AutoStart eve	アプリケーション	329 KB	2014/07/25
1 lieb安全な取り外Lieve	アプリケーション	272 KB	2015/09/25

非表示化するファイルを個別指定する事ができます。

ALL ON/OFFスイッチ

クリックすると全ファイルの選択になります。一部のフォルダや ファイルを個別指定で設定する場合は、チェックをつけてから OKをクリックして、非表示化ONボタンをクリックします。



■非表示化できないフォルダ

"Document"フォルダとUsbStealthは非表示化されません。 "Document"フォルダはファイルコピーの禁止が解除できる フォルダです。データの受け渡しの際には"Document"フォ ルダにデータを保存します。

UsbStealthは非表示化すると復元ができなくなりますの で、非表示化除外ファイルとして登録されています。 UsbStealthの名称を変更したときはご注意下さい。

"Document"は⊐ピー許可フォルダといいます。 ⊐ピー許可フォルダは⊐ピーガードが解除されるフォルダで す。"Document"フォルダはUsbManageで名称変更ができ ますがUsbStealthでは"Document"フォルダという名称が 固定で予約されていますのでご注意下さい。UsbManageで ⊐ピー許可フォルダ名称を変更した場合は、手動でSelect Target fileを指定して非表示化を解除する必要がありま す。

■動作可能なUSBメモリ

UsbStealthは一般的なUSBメモリでは動作しません。 UsbStealthはHyper Security/HYPER+/コンテンツガード USBメモリで動作します。非保護領域、保護領域どちらでも 動作できます。

※コンテンツガードUSBメモリにはUsbStealthは付属していません。必要な場合はHyper SecurityまたはHYPER+が必要です。どちらかのUSBメモリから取り出してご利用下さい。コンテンツガードでは標準サポート製品ではありません



トラブルサポート対応



FAQ(よくある質問と回答)

質問内容	原因と対応方法
データを保存する前にUSBメモリ を抜いてしまった。	ハイパーセキュリティーUSBメモリでは、データベースなどの上書き保存を許可する事ができま す。データを保存する前にUSBメモリを取り外した場合は、保存する方法はありません。 これらのミスが連続する場合は、Hyper Securityのご利用を推奨します。 Hyper Securityではレスキュー機能があり、Excelなどのデータに関しては"別名保存の禁止"を ー時的に解除する事ができます。
ウィルスには感染しませんか?	非保護領域は空き容量をゼロにして下さい。空き容量が無ければファイルの書き込みができま せんのでウィルス感染を避ける事ができます。保護領域はファイルコピーの禁止でファイルを追 加する事はできません。ただし、コピーガード解除中に既にウィルス感染しているデータファイル を保存する事はできますので、設定される管理者パソコンにはウィルスセキュリティー対策が必 要です。※現在のパソコンでは、WindowsUPDATE機能やウィルスセキュリティーソフトの導入で 万が一混入があってもUSBメモリからは自動実行ができない仕組みになっており2重、3重の対 策が取られています。ハイパーセキュリティーUSBメモリにウィルス判定する機能はありません。 コピーガードを有効にするとそれ以降の感染はありませんが、保存するコンテンツにウィルス感 染が無いことをセキュリティーソフトで確認して下さい。
パスワードは必ず必要ですか?	ユーザーパスワードは任意設定で何も設定されていない場合はパスワード入力画面は表示さ れません。ユーザーパスワード、管理パスワード共に無効にできますが、ユーザーパスワードは 推奨設定で管理パスワードは必ず設定して下さい。初期値adminで設定されていますので変更 して下さい。
パスワードを入れても進まない	・全角半角を確認して下さい。 ・ユーザーパスワードは管理者パスワードがあれば再設定可能です。UsbManageで再設定を 行って下さい。 ・管理者パスワードを忘れた場合は再設定できません。管理パスワードは最高で20回間違える とそれ以降のパスワード入力を無視します。この状態になった時はパソコンを再起動するとり セットされます。
別名保存が禁止されない	別名保存の禁止設定がされていない ・「保護領域に入っているコンテンツの別名保存を禁止する」がOFFになっている ・別名保存禁止の登録リストに登録されていない ・ソフトウェアーによっては別名保存機能が停止できない場合があります。
メールでエラーになる	別名保存の禁止をした場合で「別名保存を許可ソフトウェアに限定する」がOFFの場合、メール や他のソフトで保存ができません。この機能をONにすると許可プログラムだけ指定形式の保存 を禁止します。 USBメモリを抜いた後にメールの再受信を行って下さい。
特定のプログラムでファイルが開 かない	実行を許可するプログラムに登録されていない。→UsbManage「許可ソフトウェアの登録」参照 ソフトの起動時に作業用フォルダを使うソフトは別名保存の禁止機能が働き、中間ファイルなど の生成ができずにエラー表示される事があります。別名保存機能を一時的にOFFにして確認し て下さい。
フォーマットを行いたい	フォーマットは不要です。希望する動作ができない場合は、設定に関する事が多くフォーマットと は無関係です。フォーマットは可能ですが注意がありますので製品サポートまでご相談下さい。
コピー&ペーストができない	UsbManageの保護設定で「クリップボードの禁止」がONになっている。 クリップボードの禁止はWindowsのクリップボード機能を禁止していますので全ての操作でコ ピー&ペーストが働きません。制限はUSBメモリを取り外すと解除されます。
印刷ができない	印刷禁止を設定している場合は、USBメモリ内のコンテンツ以外でも印刷が禁止されます。許可 ソフトウェア設定で登録リストに登録されている場合は、登録されたソフトの印刷が禁止されま す。許可ソフトウェアを限定しない設定の場合は全ての印刷が禁止されます。

製品保証

■保証内容

①本製品はご購入日から1年間の保証があります。
 ②保証の範囲は本体のハードウェアー部分のみになります。

③本製品のハードウェアーが1年以内に破損した場合は無 償修理または同等品との交換を致します。

④ご購入日から1年を過ぎた場合での破損は有料修理に なります。

⑤製品に付属しているソフトウェアー部分の不具合はバー ジョンアップまたはリビジョンアップで無償提供されます。

■保証対象にならないケース

①保存されていたデータは保証対象になりません。大切な データは必ずバックアップをお取り下さい。

②本製品のハードウェアー障害や付属ソフトの不具合など でデータが破損した場合、直接的または間接的な復元作業 などの費用を含め一切の保証はありません。

③本製品は全てのパソコンまたは将来的にわたって絶対に コピーができない事を保証はできません。特定のソフトなど でコピーができる場合は、サポートまでお知らせいただけれ ば対応致します。

④USBメモリは書き換え回数に制限があり寿命がありま す。過度な書き込みを繰り返すソフトなどの利用はできませ ん。これらのソフトの利用は補償期間であっても補償対象 にはなりません。

⑤改造または解析行為による破損は補償の対象外になり ます。

■免責事項

①サポートは現状無料で提供しておりますが、将来的にわ たって無料のサービスを継続・維持できる事の保証はあり ません。諸事情により無条件での製品サポートを中止する 可能性があります。

②製品に対するサポートは無料で提供されていますが、 メールやFAXなどの対応のみとします。電話サポートはー 切行っておりません。過度なサポートを要求される場合は、 当社の判断でメールサポートを含むサポートサービス全般 を停止させていただく場合があります。この場合、返品や返 金には応じられません。 ③製品の仕様は断りなく変更する場合があります。

■サポート

サポートを受ける際には以下のご利用環境をご連絡下さ

い。

ご利用のOS ご利用のセキュリティーソフト ご質問の製品名とバージョン 保証番号:

■問い合わせWEBページ

https://www.abroad-sys.com/formzc/Support.html



製品サポート番号:1510CG600

わからない事は ユーザーサポートへ

使い方でわからない事やエラーなどが表示され動かない場合 はサポートセンターにお問い合わせ下さい。サポートはトラブル 対応以外に製品をよりよくご利用の為の相談窓口です。ご利用 事例などもご紹介しています。

■サポート番号

サポートは正規のご購入者様のみに提供しています。 エンドユーザー様の直接サポートは行っておりません。エンド ユーザーからのコンテンツの設定状態(禁止項目)が当社では 不明な事とご回答する情報が出して良い情報なのかどうか当 社では判断できない場合があるからです。パスワードの調べ方 やコピーガードの解除方法などは利用者には出せない情報で す。実際の利用者(エンドユーザー)の方からのご質問か正規 ユーザー(コンテンツ提供者)の方からのご質問かを確認する 為に製品サポート番号をお尋ねしております。お持ちになって いる製品番号または保証書の番号をご連絡下さい。

製品サポート番号: 1510CG600 または 保証書番号または伝票記載の数字8桁の保証番号をお知らせ 下さい。

製品サポート番号や保証番号は、正規ユーザー様の確認と出 荷製品の種類や出荷ロットを確定する為の情報です。Ver6の 製品をご利用の場合、旧バージョンから更新プログラムでVer6 バージョンアップを行った場合と新規で出荷しているVer6では USBメモリ内部のハードウェアーや非保護側の容量が異なりま す。

エンドユーザー様への直接サポートの場合、伝えてはいけない 情報をお出しする事を避けるために必要です。

電話サポートは一切行っておりません。お急ぎの場合でもメー ル対応のみになります。メールでのご回答は当日中または翌 営業日になります。

対応時間 平日10:00~18:00

お急ぎの場合は、製品サポート番号、お客様環境(Windowsの バージョン)や詳しい状況をお知らせ下さい。状況確認ができま せんとご回答が遅れます。

【サポートからのお願い】

漠然に「エラーが表示されました」「設定がわからないんですけ ど」「動かないですけど」では回答ができません。ある程度、使う 側のパソコン種類(Windows7/8/10等)や使っている商品名 "ハイパーセキュリティーUSBメモリ"、どのような操作で困って いるか等を詳しくお伝え下さい。

色々なパソコンで使うのでOS種類は限定できないといった場 合でも、説明する用語やOSの種類で操作が違う為サポートす るには必要な情報です。

例えば、他社製のセキュリティーソフトが原因で正常動作がで きない場合でも、原因を調査する為のコマンド入力が必要な 場合、XPとWindows7ではコマンドの実行方法が違うのでサ ポートより使っているOSの再質問があり回答が遅れます。

●トラブル解決には[設定レポート機能]が早い!

設定の問題やパソコンのハードウェアー的な問題でトラブル が発生している場合もあるので附属ソフトUsbManageの「設定 レポート」でUsbSetting.txtが出力できます。この情報をサポー トセンターにメール添付で送信を行うとトラブル解決に大きく役 立ちます。

→ info@abroad-sys.com へ設定レポートをメール添付して下 さい。

●ウィルス対策セキュリティーソフトでのトラブル

マイクロソフト社製以外のウィルスセキュリティーなどのソフト を使っている場合は、ウィルスセキュリティーソフトが動作の邪 魔をしていたり、誤ってウイルスとしてファイルを削除してしま う事があります。こういった場合は、サポートセンター側でセ キュリティーソフトを作っているメーカーに対してウィルスの誤 検知報告を行い、次回のアップデートで誤検知がされないよう に依頼を行います。競合問題やウィルス誤検知で報告された ものに関しては既に対策がとられています。

●ご利用の用途などをお知らせ頂けますと・・・

過去のお客様活用事例でのアドバイスも致します。同じ種類 のコンテンツでも利用方法で目的が違う為 的確な情報をお伝えできません。販売用のコンテンツ、社内 用のコンテンツ、用途などをお知らせいただけますと活用ノウ ハウもご案内します。

例)ファイルを見えなくする方法やテキストファイルの拡張子を 付けない、UsbQuickStartのネットワーク配布機能等です。



サポート

■サポート除外内容

以下の内容はサポートができない又は免責事項です。サポートサー ビスは設定支援やお困りの場合のサポートを行っています。 マニュアルに記載ページのご紹介や活用事例、エラー障害の回避 方法をご紹介します。本マニュアルは、色々なケースで汎用的に書 かれていますので配布するコンテンツが決まっていればより簡単に ご案内を差し上げる事が可能です。お問い合わせの際には、できる だけお客様のご利用方法やコンテンツ内容をお知らせ下さい。

- ⇒ 電話でのサポート対応は行っておりません。必ずメールや FAXなど文書でお送り下さい。
- ⇒ 本製品の正規ユーザーに限り、設定方法の説明やトラブル 障害の相談をE-Mail、FAXで対応になります。
- ⇒ Windows操作や他社製ソフトの操作・機能に関するご質問は 基本的にサポート対象外になります。
- ⇒ 本製品は1年間の保証があります。保証は物理的な破損が 対象になり、それ以外の失われたデータや直接的または間 接的な費用の責任は負う事ができません。
- ⇒ サポートはメールまたはFAXでのみ対応し受付順で回答を致 します。特に混み合っていない場合は30分程度でご回答を しています。混み合っている場合や内容によっては翌日営業 日(平日)になる場合があります。お客様の理由でサポートの 優先順位を変更する事はできません。
- ⇒ 本製品は対応OSであっても全てのパソコンで動作できる事 を保証した製品ではありません。他社製のセキュリティーソフ トや高速化ツール等の影響やOSの不具合に影響される場合 があります。
- ⇒ パソコン側の設定やセットアップされている他社製のソフトの 関係で動作ができない場合があります。
- ⇒ 多くの場合は、パソコンのハードウェアー的な問題、企業パソ コンで設定されているセキュリティーポリシーの問題、ウィル スセキュリティーソフトやUSBメモリの高速化ソフト等で競合 している場合のトラブルになります。この場合、対象ソフトウェ アーの設定やWindows側の設定により回避できます。

■標準的な設定期間

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、必ず設定が必要です。 はじめてのご利用の場合は、機能を理解し設定やテストなどに1~2 日程度の期間が必要です。すぐに活用されたい場合は、設定が簡 単なハイパーセキュリティーなどの製品をご利用下さい。



トラブルの原因と対策

復旧方法について



フォルダやファイルの文字化け

フォルダが"uuuuuu"などになってアクセスできない場合はフォ ルダ名やファイル名を管理しているインデックス領域が破損し た状態です。この場合、以下の方法でフォーマット操作などをお こない復元して下さい。

■フォルダ名破損の場合の原因と対応

USBメモリはFAT(File Allocation Table:ファイル・アロケーショ ン・テーブル:ファット)というフォーマット形式で初期化されてい ます。FATではデータ部とインデックス部があります。インデック スは本の目次にあたる情報が保存されています。このインデッ クスを書き込んでいる最中にUSBメモリを取り外すと、インデッ クスが破損しフォルダやファイル名が文字化けする事がありま す。これらの破損が起こらないようにUSBメモリの取り外しで は、Windowsの取り外し操作(USBメモリを選択して右クリック→ 「取り外し」の操作)や付属ソフトのUsbRemove(Usb安全な取り 外し)などの利用を推奨しています。UsbRemoveは、Windowsの USBメモリ取り外し機能を呼び出している便利ツールでWindows の取り外しと同じ処理を行っています。UsbRemoveとUsb安全な 取り外しは名前違いの同じソフトウェアーです。インデックス破 損は書き込み時に発生しやすいので連続してのマスタ作成は 注意が必要です。

●USBメモリ取り外しのポイント

USBメモリへのデータ書き込みでは、画面上で書き込みが終わったとしても、実際に書き込みが終了するまで1~2秒程度の タイムラグがあります。アクセスランプがあるモデルでは、アク セスランプが点灯していない事を確認してから取り外しを行って 下さい。アクセスランプがないモデルでは、書き込みが終了して 直ぐに取り外さずに一呼吸おいて取り外しをお願いします。フォ ルダやファイルを破損した場合はフォーマットを行うと修復する 事ができます。

■非表示フォルダのバックアップ

ハイパーセキュリティーUSBメモリには、管理用の非表示フォル ダ".ofg"が保存されています。フォーマットを行うと、この".ofg" フォルダが消えてしまいますので事前にバックアップをとりま す。複数のUSBメモリを設定している場合は同じバージョンの USBメモリから取り出す事もできます。管理用の非表示フォルダ や保存されているファイルは同じバージョンでは共通です。 もし、破損したUSBメモリの".ofg"フォルダーも破損している場合 で同じバージョンのハイパーセキュリティーUSBメモリをお持ち でない場合は、ご利用の製品名とUsbStart実行時に表示されて いるバージョンを当社製品サポート info@abroad~sys.com へご 連絡下さい。

■非表示フォルダの表示方法

非保護領域、保護領域には管理用のフォルダ".cfg"フォル ダが保存されています。このフォルダには、エラーメッセー ジや動作に必要な情報が含まれています。通常は見えな い状態になっていますので、パソコンの設定で非表示フォ ルダを見える様に設定変更して下さい。

く非表示フォルダを表示させる操作>

Windowsのファイル操作画面エクスプローラー)メニューより [ツール]

→[フォルダオプション]→[表示]タブを選択し、詳細のチェッ クボックスやラジオボタンで以下の2つの項目の設定を変 更します。

①「隠しフォルダ、隠しファイルを表示する」にチェックを入れる。

②「保護されたオペレーティングシステムを表示しない(推奨)」のチェックを外す。





フォルダオプションを変更して非表示フォルダを表示する

A

保護領域のフォーマット

上記2つの項目を設定すると非表示の".cfg"フォルダを表示する事 ができます。非表示フォルダは薄いアイコンで表示されます。

■".cfg"フォルダのバックアップ 注意事項

".cfg"フォルダは保護領域と非保護領域に同じフォルダ名がありま すが内容が違いますので注意して下さい。必ず、保護領域側の ".cfg"フォルダをコピーして下さい。保護領域はUSBメモリのボリュー ム名が"PROTECT_USB"になっています。この状態の".cfg"フォル ダをコピーします。前ページの操作で保護領域側の管理用フォルダ の".cfg"フォルダのバックアップコピーがとれましたらフォーマットを 行います。

■初期化作業(フォーマット)

フォーマットは、フォルダやファイル名の文字化けの現象のみの操 作で行って下さい。それ以外の理由でのフォーマットは必要ありませ ん。設定がうまくいかない、思うような動作をしない等の理由では フォーマットは行わないでください。Windowsでのフォーマットは論理 フォーマットと呼ばれており完全に初期化できるものではありませ ん。

この為、フォーマットを行ってもUsbManageで設定している情報には 影響がありません。完全に初期化を行うには、物理フォーマット (ローレベルフォーマット)を行いますが通常は不要な操作で Windowsの標準機能には付属していません。物理フォーマットを行う とお客様側での復元操作はできなくなります。

■フォーマット手順

保護領域に切り替えてからフォーマットを行いますが以下の順番で 操作を行って下さい。 ①保護機能の解除 UsbManageを使い禁止設定を全て解除します。 ②UsbStartを実行して保護領域に切り替えます。 ③USBメモリ(PROTECT_USB)を選択して右クリック→フォーマットを 選択します。 クイックフォーマットのチェックを外して、設定値が右図のようになっ ているか確認して開始ボタンをクリックします。 ④管理用フォルダの".cfg"フォルダのバックアップを戻します。 前ページでバックアップしてあった."cfg"フォルダをコピーで戻せば 作業は終了です。

■フォーマット形式の選択

USBメモリはフォーマット形式は初期値はFTA32になります。ハイ パーセキュリティーUSBメモリVer4以降は、フォーマット形式に依存 しませんので、他のフォーマット形式でも動作します。 ・FAT32(初期値) USBメモリの標準的なフォーマット形式。1ファイル4G以下という制限

オーマット - PROTECT_USB	23
容量(P):	
3.72 GB	•
ファイル システム(F)	
FAT32 (既定)	•
アロケーション ユニット サイズ(A)	
4096 / 『거ト	-
PROTECT_USB フォーマット オプション(0) 「シイック フォーマット(Q) MS-DOS の起動ディスクを作成する(M)	
開始(S) 開じ	-3(C)

がありますのでハイビジョン動画などで1ファイルで4G以上 のファイルを保存する場合は、exFATなどのフォーマットに する必要があります。FAT32はXP以降のOSは全てサポー トされています。

exFATをする場合は、XPパソコンではサポートされていな い等制限事項があります。(→P.43「exFAT」参照)



フォーマットで使われる用語と意味

フォーマット形式について

USBメモリはフォーマット形式は初期値はFAT32になります。ハイ パーセキュリティーUSBメモリは、保護領域、非保護領域共に初 期出荷状態ではFAT32フォーマットで出荷されています。ハイ パーセキュリティーUSBメモリVer4以降は、フォーマット形式に依 存しませんので、他のフォーマット形式でも動作します。

•FAT32(出荷時)

USBメモリの標準的なフォーマット形式。1ファイル4G以下という 制限がありますのでハイビジョン動画などで1ファイルで4G以上 のファイルを保存する場合は、exFATなどのフォーマットにする 必要があります。推奨のアロケーションユニットサイズは4K (4096)バイトです。FAT32はXP以降のOSは全てサポートされて います。

•exFAT

大容量SDカード(SDXC)などに採用されているフォーマット形 式。FAT32の容量制限を改善した新しいフォーマット形式です。 USBメモリで1ファイル4G以上のファイルを保存する場合は、 exFATでフォーマットを行います。exFATは初期値でアロケーショ ンユニットサイズが32Kバイトになっていますので小さなファイル を保存する場合は非効率です。小さなファイルが多い場合はア ロケーションユニットサイズを4K(4096)バイトにして下さい。 exFATはVista以降でサポートされています。XPで利用する場合 はexFATドライバーのセットアップが必要です。

•NTFS

主にHDDやSSDで利用されています。キャッシュが大きくアクセ ス速度も早いのですがUSBメモリでは、安全な取り外し操作を行 わないと破損の可能性が高くなるので推奨していません。XP以 降のOSは全てサポートされています。

■フォーマットを行う場合の注意事項

フォーマットを行うとハイパーセキュリティーUSBメモリの管理情報が 消えてしまいますので事前に管理情報のバックアップが必要です。 (前頁参照)UsbManageで設定した保護内容はフォーマットなどには 影響しませんので管理パスワードなどは同じです。 ※初期化ツールなどを使ったローレベルフォーマットは行わないで下 さい。ローレベルフォーマットを行った場合は、お客様側で復元処理 はできません。ローレベルフォーマットが必要と感じられる場合は、 ハイパーセキュリティーUSBメモリのサポート info@abroad-sys.com へお問い合わせ下さい。

■アロケーションユニットサイズ(クラスタサイズ)

アロケーションユニットサイズとは、データを管理するブロックあたり のサイズです。従来はクラスタサイズと呼ばれていましたが、 Windowsではアロケーションユニットサイズという名称で説明されてい ます。

USBメモリやHDDでは、ブロック(箱番号)で管理されています。 フォーマットではブロック単位のサイズを指定します。通常は1ブロッ クで4096パイト(4K)が1つの単位です。1つのファイルに半角で1文 字しか記録されていない場合でも、記憶容量としては1ブロック(箱) の4K(4096)パイト分が消費されます。半角換算で5000文字の場合は 2ブロックの8Kが使われます。逆に映像データなど大きなデータを保 存する場合は、32Kなどの大きなブロックの方が管理個数が減るの で書き込み速度が速くなったり管理データ部も減るので効率的になり ます。

exFATの初期推奨値は32Kですが大きな映像以外のファイルでは4K 程度が最適です。ファイルをハードディスクからUSBメモリヘコピーし た場合にファイルサイズが少し変わっている事があります。これは、 アロケーションユニットサイズの違いによるものです。

※1Kは通常1000の事ですがコンピュータでは2進数で管理されてい る関係で1K=2の倍数の1024バイトとしています。4Kは4096バイト(文 字)になります。





USBメモリの抜き差しを繰り返していると、タイミングによりWindowsの デバイスマネジャーで一時停止をされUSBメモリが認識されない場合 があります。

この場合は、認識しないUSBメモリをパソコンに差し込んだ状態でデバ イスマネジャーを確認します。黄色のアイコンが表示されている場合 は、停止しています。この場合、黄色のアイコンを右リック→プロパ ティー→「デバイスを有効にする」をクリックすると再開します。

■この現象の確認

①特定のパソコンのみUSBメモリを挿入しても何も反応しない。 ②他のUSBメモリは正常に利用できる。

③該当のUSBメモリは他のパソコンでは利用ができる。

④以前は利用ができていた。

上記の場合は、特定のUSBメモリがWindowsにより停止されています。





■デバイスマネジャーの起動

マイコンピュータ→右クリック→プロパティー→ハードウェア→デバイ スマネジャーを選択します。正しくセットアップされていない場合は黄 色のマークがされています。右クリックメニューより削除後、USBメモ リをもう一度挿入します。

※Windows8以上の場合はWindowsキーとXを同時に押すとデバイスマネジャーを選択できます。

■原因

①USBメモリを取り外す際に安全な取り外し操作を行わなかった。 タイミングによりWindowsのデバイスマネジャーがファイルの破損を防 ぐ意味でUSBメモリの利用を停止している場合があります。プロパ ティーで再開ポタンをクリックすると復帰します。

②はじめて、対象のUSBメモリを使ったときにWindowsが大容量ドライバの設定を行います。関係ドライバは3~4つ程度セットアップされますが、セットアップ途中でUSBメモリを取り外してしまうとこの現象になります。

この場合は、黄色になっているデバイスマネジャーを削除して、もうー 度USBメモリを挿入すると再セットアップされます。→次ページへ。





USBメモリが急に認識しなくなった

■USBメモリのドライバセットアップで失敗

パソコンにUSBメモリを挿入すると初めてのUSBメモリの場合は、USBメ モリの大容量記憶装置ドライバがセットアップされます。このセットアップ 作業中が失敗しているとUSBメモリが認識しません。

ドライバとはパソコンに接続する全ての機器に必要な、機器を個別に制 御する為の管理ソフトです。USBメモリやマウス、キーボードなどは Windows標準ドライバが自動セットアップされてから利用する事ができま す。削除しても再度セットアップされます。

USBメモリのドライバは1つではなく複数セットアップされます。通常は2 ~3つの程度のドライバがセットアップされますが、バックアップソフトな どを使っている場合は更に追加される場合があります。複数のドライバ がセットアップされる場合、セットアップ中にUSBメモリが抜かれると完全 にセットアップが完了されない為、デバイスマネジャーで停止されている 場合があります。この場合は、デバイスマネジャーを開き、該当のドライ バが黄色のマークがついていますので削除して下さい。削除した状態 でUSBメモリを再挿入するとドライバが再セットアップされます。

■セットアップにかかる時間はパソコン性能やWindowsパージョンによっ て変わる。

USBメモリのドライバは個体ごとにセットアップされますので、同じ種類 のUSBメモリを使っても個体が違えば毎回セットアップされます。 このセットアップ時間は新しいOS程短くなります。例えばXPパソコンの 場合は30秒~1分程度かかりますがWindows7では10秒程度、 Windows8やWindows10では2~3秒程度でセットアップされます。





セキュリティー対策ソフトでファイルが削除される

■セキュリティー対策ソフトでファイルが削除される

お使いのウィルスセキュリティーソフトによっては、本USBメモリのシ ステムファイルが削除されたり本システムの動作を抑制される場合 があります。

ウィルスセキュリティーソフトには、ウィルスパターンでの検知方法と 「ふるまい検知」と呼ばれるウィルス特有の動作を検知する機能があ ります。ふるまい検知はベンダーによっては「ヒューリスティック分析」 や「ジェネリック検知」と呼んでいる場合もあります。「ふるまい検知」 の精度を高くしている場合や自動更新される更新パターンのミスで 本USBメモリの付属ソフトがウィルスセキュリティーソフトで誤検知さ れ削除される事があります。

誤検知で附属ソフトのUsbStartなどのソフトが削除される場合、当社 側から対象のウィルスセキュリティーソフトメーカーに誤検知の報告 を致します。

当社からの報告が受理されると次回ウィルスセキュリティーの更新 処理で反映され誤検知が修正されます。もし、ファイルが消えてしま う事がありましたら当サポートまでご連絡下さい。申請が反映される までは、ウィルスセキュリティーソフトを一時停止してご利用下さい。

■セキュリティーソフトでの不具合(avast)

セキュリティーソフトのAvast(有料版)での障害が報告されていま す。avastでも正しくお使いの場合はご利用になれますが、重大なトラ ブルの可能性がある為、当社では推奨しておらず製品パージョン Ver5.0以降でavast警告を表示しています。

当社で把握している現象は検査時間が長い(15秒)、ミス操作を誘導 しやすい(検査中にUSBメモリをはずすとファイルが消える)、他社製 の何らかのソフトとの組み合わせでブルーバックスクリーンになりフ リーズする等の報告があります。2014/04

[avast警告詳細]

avastをセットアップしているパソコンではUsbStart実行時に警告メッ



セージを表示しています。

検証バージョン:avast!アンチウィルス2015、avastプレミア2015 検証時期:2015/9 avastでUSBメモリ内のプログラムを実行する場合、仮想空間 (avastSANDBOXフォルダ)に移動され仮実行し検査が終わると復元され る動きがあります。初期値では「**アバスト ディープスクリーン」**という機能 が有効になっています。毎回、15秒程度検査時間がかかりますが終わる まではクリック操作等は行わないで下さい。

〈現象〉

<u>処理中に処理を止めるとファイルが消える又は名前が復元されていない</u> 等の現象になる。

UsbStartやUsb安全な取り外し(UsbRemove)を実行するとブルーバックで フリーズする等の報告があります。(当社では確認はできておりません) avastに関しての情報はネット検索で "avast ブルースクリーン "など のキーワードで検索を行って下さい。

※当社で検証を行っているavastは2015年版ですが障害は過去バージョ ンでも確認しています。2014年など旧バージョンのavastをご利用の場合 は、誤操作でトラブルになりやすいので2015年度版など新しいパージョン に更新して下さい。

avastのサンドボックス(砂場)機能とは、日本語では仮想実行環境と訳さ れています。ディープスクリーンをON(初期値)すると仮想実行環境で検 査されます。サンドボックスとは隔離された安心な砂場(場所、フォルダ) に検査対象のファイルを移動して検査を行う意味です。サンドボックス検 査機能は有料版のみの機能でフリーソフト版にはありません。 ディープスクリーンをONのまま利用した場合、UsbStartなどの検査対象 のファイルのリネームを行いavastSANDBOXフォルダにコピーされます。 検査が終了すると元ファイルの名前を戻して再実行されます。 問題点は検査中にUSBメモリを取り外すと元ファイルの名前が復元しな い事や仮想環境で実行後にもう一度本実行されるので2回実行されるような動きになり違和感があります。

avastのフリーソフトバージョンには、ディープスクリーン機能がありません ので問題ありませんが、ハイパーセキュリティーUSBメモリのシステムで 利用バージョンの判定ができませんのでフリーソフトバージョンでも警告 が表示されます。



ライセンス登録操作画面

初回UsbStartを実行した時にライセンス登録処理の画面が表示される場合は[OK]ボタンをクリックして下さい。

ライセンス登録は、USB個体単位に対して行われます。



通常この画面は表示されませんが、表示された場合はOKをクリック して先に進んで下さい。キャンセルした場合は、[OK]がクリックされる までUsbStartで毎回表示されます。

ライセンス登録は出荷履歴を管理する為や個体承認の開始に必要 です。OKをクリックするとインターネット経由で出荷履歴が登録され ます。

※この画面はOEM契約でUSBデュプリケーターで大量生産を行いた い場合やカスタマイズ製品等で表示される場合があります。 ※標準的なパッケージ商品では表示されません。



フラッシュメモリの寿命

ハイパーセキュリティーUSBメモリはフラッシュメモリという部 品が使われています。フラッシュメモリは、USBメモリやSDカー ドなどでも使われており、スマートフォンやタブレットの記憶装 置として広く使われています。

フラッシュメモリは、データ保持期間や書き換え回数に寿命が あり無限ではありせん。ご紹介するフラッシュメモリの寿命は 一般なUSBメモリの寿命に関する情報です。書き換え回数が 少ないと寿命が長くなるとされていますので、閲覧専用のハイ パーセキュリティーUSBメモリは書き込みが少ないので寿命は 長くなります。

■寿命は正確にはわからない

フラッシュメモリメーカーから個々の正確な製品寿命値の値が 公表されていません。また、メモリは利用状況や生産ロットに よる差がある事や利用状況によって差が大きすぎる為、正確 な寿命利用回数や年数といった値はわかりません。

■データの保持期間

フラッシュメモリはデータ保持に電力を使いませんので長期間 にデータを記録できますが無限にデータを保持できるわけで はありません。データ保持期間は利用状況や保管温度などの 利用環境にも影響されますが約10年~数十年とされており、 いつかは失われます。また、書き換え回数が多い場合は、 データ保持期間も短くなります。データ書き込みが少ないハイ パーセキュリティーUSBメモリはこの点において有利です。

■フラッシュメモリのエラー

フラッシュメモリが寿命などでエラーが増える場合は、メモリ容 量全体が使えなくなる状態ではありません。もし、全体が使え なくなっている場合は、パソコン側の問題で一時的に利用でき なくなっていたり、静電気や水没での回路ショートなど物理的 な破損でフラッシュメモリの寿命とは無関係です。ただし、書き 込みを激しく行うソフトウェアーの利用などはフラッシュメモリ の消耗を早め短期間で寿命に達し全体が読めなくなる事があ ります。

フラッシュメモリが寿命に近づいている場合、記憶素子の1 つづつが読み込み不良になり徐々にエラーが増える状態にな ります。例えば、ある1つの写真やPDFが途中から切れてしま う現象があり、他のファイルはその時点では問題なく表示でき ますが時間の経過とともに読めなくなるファイルが少しずつ増 えるという現象です。

■書き換え回数

USBメモリには上書きして書き換える事ができ何度も利用がで きます。繰り返しの書き換え回数には寿命があります。条件に より1,000~1万回程度になりますがこれは実用的には十分な 回数です。新規に書き込む「書き込み回数」ではなく、削除や上 書きして書き換える「書き換え回数」ですのでご注意ください。

フラッシュメモリには分散書き込み機能が備わっており、同じ箇 所に記録が集中しないようになっています。(※2)

例えば、4Gのメモリに1Gのデータを4回書き込んだ場合は、書 き込み数は1回としてカウントします。この計算ですと1,000回の 寿命は、記憶容量4GのUSBメモリに毎日、記憶容量いっぱい の4Gのデータを書き込んだ場合に約3年で寿命に達するとい う計算になります。

同じデーターを容量が2倍の8GのUSBメモリに書き込んだ場合 は、寿命も倍の6年になる計算です。

バックアップなど毎日大量データを書き込みする用途には適し ていませんが一般的な利用では、容量いっぱいに書き込みを する事がありませんので実用的には十分です。同じファイル名 を上書きした場合、空き容量がある場合は、書き換えではなく 新規の追記書き込みになります。この動作は採用しているUSB コントローラーチップによっても違いがあります。

■コンテンツカードUSBメモリの寿命

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、閲覧専用で書き込み回 数が少ない為、通常の場合1,000回の寿命に達する事はありま せん。

ただし、中間ファイルを多く使う科学計算ソフトやWindowsの キャッシュ機能であるReadyBoostは寿命を極端に短くする為、 USBメモリを消耗品と割り切った使い方になります。

■読み取り回数

読み取り回数には公表値がなく制限は設定されてはいません が、接続端子部の磨耗やUSB筐体の耐久回数の目安として抜 き差し回数10,000回としています。

これらの寿命に対する値は、実際にはメモリのタイプ(種類)や 製造ロットの問題、利用環境に大きく左右され固体によって違



※1)Windows ReadyBoost(ウィン ドウズ レディブースト)は、
Windows Vista以降の機能の一つ。
フラッシュメモリなどの外部メモリー
を、キャッシュとして利用すること
で、ソフトウェアなどの読み込みを
高速化する機能のこと。
Windows ReadyBoostはメモリ寿命
を極端に縮めるのでUSBメモリは
消耗品として利用となります。
ハイパーセキュリティーUSBメモリ
はReadyBoostやキャッシュ目的の
利用はできません。※これらの使
い方は保証対象外になります。

.

※2)分散書き込みは不要

ハードディスクにはデフラグという 処理があります。1つのデータが分 散して書き込まれれると回転してい るディスクでは読み込みが遅くなっ てしまうので整列させる為の機能で す。USBメモリに関してはデフラグ は不要です。回転をしていない事と デフラグを行っても分散書き込み 機能がある為効果はありません。 また、書き込み回数を発生される だけで寿命が短くなるだけです。

.

.

(※1)**MCL**はマルチレベルセル(Multi Level Cell)の意味で1つの素子に複数

ビット(2ビット)を記録できるタイプです。

(※2)TCLはスリーレベルセル(Three

Level Cell)または**MCL-3**など呼ばれて

います。MLCは年々流通量が少なくな

TLCは1素子で3ビットを記録しますの でSLCに比べ3倍の書き込みと読み出 しが発生します。これは寿命に大きく影

響します。MLC/TLC共に1素子で複数

ビットを記録するメモリはエラーが発生

(※3)フォーマット、コピー、検査作業

にかかる時間は2倍になりますので価

格は違いがあります。

するので補正機構がついています。

り主流はTLCになってきています。

フラッシュメモリの寿命

いがある為、目安という事でご理解ください。

メモリの種類 SLC/MLC/TCL

フラッシュメモリには3つの種類があり寿命に関係します。ただし、各タイプで品質やエラー補正機構などが日々改善されていますので一概に品質を確定できるものではありません。

SLC

フラッシュメモリはデータを1ビット単位で記録する記録素子が 使われています。最初に開発されたフラッシュメモリでは1ビッ ト記録するのに1素子が使われていました。この1素子の単位 をセルといいます。このタイプのメモリはSLC(シングル・レベ ル・セル:Single Level Cell)といい寿命が長く高品質です。 現在のMLC/TLCと比べ10倍以上の価格差があり、現在の USBメモリでは使われていません。出始めのUSBメモリが容量 が少なく高価だった理由はSLCが採用されていたからです。

MLC/TLC

現在、主流なタイプは1素子に複数ビットを記録できるMLC (※1)というメモリです。最近では1素子に3ビットを記録できる TLC(※2)というメモリも増えています。同じ面積に沢山の情報 を記録できるという事は、フラッシュメモリの低価格化に大きく 影響しています。低価格で普及が進み大量生産で更に価格 が安くなっています。ただし、高かった時代のメモリと安くなっ た最近のメモリでは種類が違っており耐久性には違いがあり ます。

現在、一番小さな容量は8Gになります。8G以下のメモリは8G のメモリを工場出荷段階で小さな容量として設定され出荷さ れます。ハードウェアー的には同じものです。(※3)

この為、4Gと8Gのメモリではあまり価格差がありません。価格 差が小さな場合は、分散書き込み機能により容量の大きな方 が寿命が延びる傾向にありますので大きな容量の方がメリッ トが大きくなります。

年々メモリ自体の品質の向上や補正機構の向上でエラーに 対する状況が改善されています。このため、最近ではTLCが 主流になっており価格面で不利なMLCの流通量が少なくなっ ています。ハイパーセキュリティーUSBメモリVer5ではMLCが 採用されていましたが、品質の向上が確認されている為、 Ver6以降はTLCを多く採用しています。

■寿命に関する補足情報

製品寿命が正確にはわからない事は、利用方法や利用環境の 影響以外に、日々改良されているフラッシュメモリの開発速度に もより変わります。

明らかに品質が劣っていた数年前のTLCと品質が良くなった最近 の寿命公表値が同じです。

公開されている情報は特定の実験環境での値なので実際の利用 環境ではありませんが目安としては使えます。これらの状況で寿 命に関する情報は正確にお伝えできる事ができない状況です。

ただし、2010年のVer1を出荷時点から寿命で使えなくなった事例 は、科学計算ソフトなどでキャッシュファイルを書き込んだ事例が ありますが、一般的なコンテンツ配布ではありません。

破損は水濡れや物理的な破損、静電気が原因と思われる内部回 路の破損のみです。



デジタルコンテンツの販売を考えられている方へ

名入れとパッケージ



コンテンツの販売

デジタルコンテンツを販売する方へ

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、情報漏えい防止の目的以外に有料コンテンツを販売する事ができます。 個体承認方式のハイパーセキュリティーUSBメモリは、サーバー承認などを必要としないデジタルコンテンツの著作権保護ツー ルです。ハイパーセキュリティーUSBメモリにデジタルコンテンツを入れて販売する場合は名入れやパッケージングを行い商品 価値を高める事ができます。

■コンテンツとは

コンテンツとは、内容や中身の意味です。文書、映像、音楽、プ ログラムなどのファイル等で配布するデータを指しています。 USBメモリに保存する相手に伝えたい情報の事や保存するファ イルをコンテンツと呼んでいます。

■ネット流出のリスク

情報商材と言われている分野でノウハウや教育などのデジタ ルコンテンツを販売する事例が増えています。高額な有料コン テンツの場合、コピーされたりYouTubeやネット共有ソフト(※ 1)などに公開されると大きな機会損失を生じます。ネット共有 ソフトを使うと、同じソフトがセットアップされている多くのパソコ ンにデータが共有されてしまい削除する事が事実上不可能で す。

ネット共有ソフトは、フリーソフトで利用者も匿名性があります。 データ共有は意思をもって公開されますが、ネット共有ソフトで 入手したソフトの中には暴露ウィルスと呼ばれているウィルス が仕込まれたソフトがあります。暴露ウィルスとは気付かずに 実行するとユーザーファイルを全て公開してしまう悪質なソフト です。ハイパーセキュリティーUSBメモリは、これらのリスクに対 応しています。

■デジタルコンテンツの製品価値を高める

映像やドキュメントなどのデジタルコンテンツは、情報なので形 がなく物理的なものではありません。手渡しすることもできず販 売するには面倒です。ダウンロード販売やストリーミング放送と いった方法では、オンラインでのDRM(デジタル著作権管理)の 仕組みが必要で維持管理にもランニングコストが発生します。 高額コンテンツの場合は、メディアで所有したいというニーズも あります。

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、物理的なメディアとして以

外に有料コンテンツ販売の為のコピーガード機能やパッ ケージ化や名入れサービスを提供しています。

USBメモリケースにはログや社名、製品名を印刷する事 ができます。USBメモリへのロゴ、社名などの印刷は「名入 れ」と呼んでいます。名入れは他には無いオリジナルコン テンツという事をアピールし、企業ブランドや商品価値を高 めます。

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、有料コンテンツを販売する為に開発されていますので、名入れやパッケージ化 も標準的なサービスとして考えられておりトータルなコンテンツ販売のソリューションを提供しています。

■ブリスターパック

ブリスターパックとは、透明なプラスチックシートを真空成 型で品物の形状に包み込むような形状で作られる包装 パッケージの一つです。ブリスターとは"水ぶくれ"の意味 で薬の個別包装などでよく使われています。安価で商品を 衝撃や傷などから守ることができます。

オリジナルのブリスターパックの作成は金型費用など初期 費用が高額(30~50万円/個)な為、現実的な単価にす る為に数万個の発注数量が必要です。

紙製の箱の場合は、発注数量を減らす事ができますが、 価格を下げる為には、それでも数千個単位です。

コンテンツUSBメモリでは、紙ジャケットを差し替えるだけで 汎用的に利用できるブリスターパックを提供しています。

小ロットでも安価にオリジナルパッケージを作る事ができま す。

.

ソフトを使うと、同じソフトをもっ

ているパソコン同士でファイル 共有が行われます。

動画、写真、音楽、ソフトウェ アーなど著作権を無視した違法

コンテンツがインターネット上に

流れています。ユーザー数が多

いため、一度拡散してしまうと

日本では海賊版コンテンツのダ

ウンロード行為は禁止されてお

ハイパーセキュリティーUSBメモ リでは、ネット共有ソフト対策が

とられており解除する事はでき

削除する事ができません。

り違法です。

ません。

※1)ネット共有ソフト

Napsta/Gnutella/WinMX/ BitTorrent/Winnyなどのフリー



USBケースへのマーキング(名入れ)

■名入れとは

USBメモリの外装ケース(筐体:きょうたい)は金属製またはプラ スチック製です。紙以外の印刷になりますので、特殊な印刷が 必要です。

■レーザーマーキング

ハイパーセキュリティーUSBメモリの外装ケース(筐体)は、ア ルミ製とプラスチック製があります。アルミ製の場合は、レザー マーキングで刻印を行います。レーザーマーキングとは着色や 防汚加工をするためにアルミにアルマイト加工をしています が、このアルマイトを熱で剥がす(焦がす)方法でマーキングを 行うものです。版が不要で小ロット印刷に適しています。色は 白1色になります。データは2階調の黒100%(RGB:#000000)にし か反応しませんので、カラーやグレー階調は印刷する事ができ ません。

レーザーマーキングはインクを使っていませんので揮発性のク リナーでも刻印がきえないというメリットがあります。短納期対 応やシリアル番号印刷も可能です。

■溶剤系インクジェット印刷

プラスチック製の筐体の場合は、溶剤系(ソルベント)のインク ジェット印刷を行います。メリットとしては数十本単位の小ロット 印刷が可能な事、製版が不要、短納期対応、シリアル番号を 印刷できる事です。デメリットとしては、溶剤系のインクジェット 印刷ではカラー印刷ができますが4色印刷なのでカンパニーカ ラーのような厳密な色指定には対応できません。有機溶剤を 含んだクリーナーで色落ちする事があります。金属にも印刷は 可能ですがUSBメモリの場合は、表面に傷や汚れがつかない ようにアルマイト加工を行っており定着性が悪いのでインク ジェット印刷は適していません。

■シルク印刷

シルク印刷は、主に紙以外のプラスチックや金属などに文字な どを印刷する方法で広く使われています。シルク印刷は、固定 治具の作成や色ごとにシルク版が必要なので初期費用が発生 します。この為、小ロットには適しておらず1000本以上の比較 的大きなロットの印刷に適しています。納期は2~3週間程 度かかります。

色ごとに版が必要なので写真などのフルカラーも不得意で すが、メリットとしてはDIC指定などの厳密な色指定ができ る事、大量の場合はコストが安くなる事、溶剤系インク ジェットよりインク強度がありマーキングが落ちずらい事で す。溶剤系インクジェットでは、製版が不要ですがあらかじ め決まっている4色(CMYK)で重ね塗り印刷を行いますの で、写真などはきれいに発色できますが、企業ロゴなど厳 密な色指定はできません。

例えば、緑色を表現する場合、シルク印刷では指定色の 緑色のインクを作ってペイントしますが、インクジェット方式 では黄色50%、青50%の細かな粒点を塗り色を表現しま す。







生産時のコンテンツコピー

■生産時のコンテンツコピー

ハイパーセキュリティーUSBメモリは、製品の特長であるコピー ガード機能がありコピーを行う事ができません。

同じものを作る場合は、コピー禁止を解除してからコピーを行い1本づつ禁止設定を行って下さい。大量の作成が必要な場合は、工場出荷段階で設定と指定コンテンツを入れて出荷依頼 をします。

手作業で1本づつ同じコンテンツを入れて同じ設定を行うのは2 0本以下が推奨値です。20本以上の場合やファイル数が多い 場合はミスが発生する確率が高くなりますので推奨していませ ん。手作業でファイルコピーをした場合は、完全にファイル書き 込みを終了させる為に完全に書き込みが終わった段階でも、 アクセスランプがあるUSBメモリの場合はアクセスランプ点灯が ない事を確認するか一呼吸置いてから取り外しを行って下さ い。(→P.41 USBメモリ取り外しポイント)

コンテンツコピーは専用のコピーツール(SaftyCopy)のご利用 か工場でのコンテンツを入れた状態での出荷サービスをご依 頼下さい。工場で事前にコンテンツを入れる作業にはボリュー ムコピーの禁止前段階で専用の機械で複製と検査が自動的に 行われます(有料オプション)。手作業より効率的で時間が短 縮できる、費用が安くなるメリットがあります。機械での複製作 業が終わった段階で1本づつの検査とライセンス登録作業を行 い出荷されます。

※コンテンツを入れて出荷する場合は有料になります。 ※SaftyCopyは標準付属ソフトではありません。

■Windowsのコピー&ペリファイ

Windowsのコピーは検証機能(ベリファイ)がありません。(※1) 大量のファイルをコピーする場合は正しくコピーされているかど うかの補償がありません。実際一度に1000ファイル以上など 大量にコピーを行った場合はコピーでファイル破損が見受けら れる場合があります。CD/DVDのライティングソフトでは、ベリ ファイやコンペアといった書き込み検証機能がありますが、 USBメモリに対しては利用できません。

フリーソフトなどのファイルコピー専用のソフトでは、ベリファイ

などの検証機能がありますので、これらのツールを利用す る方法もあります。Windowsではコマンドラインでのファイル 比較は可能ですが。ハイパーセキュリティーUSBメモリの 場合、コマンドラインで実行する機能は排除されますので Windows標準機能での比較検査はできません。

ハイパーセキュリティーUSBメモリでお客様側で大量コンテ ンツを作成するために、ファイルコピーと検証作業、連続コ ピーを自動で行うSaftyCopyというソフトが提供されます。 (2015・10以降)

※SaftyCopyは、安全に同じコンテンツを複製するための 補助ソフトです。検証時間がありますので単純コピーより 時間がかります。

※SaftyCopyはユーザーサポートツールです。ご利用にな りたい方はサポートまでご依頼ください。正規ユーザーの 方は無料で利用する事ができます。



※1)巡回冗長検査

Windowsのファイルコピーでは、

巡回冗長検査(CRCチェック)

という検査が行われます。CRC

チェックでは、不良セクターなど

の物理的に書き込みができな

かった場合の検査は行われて

います。ハイパーセキュリティー

USBメモリは、出荷時の検査で 不良セクターの検出は行ってお

りますのでCRCエラーになるような事例は過去ありません。

法1)対応形式

参照

原理的には全ての形式に対応

しています。ただし、別名保存

の禁止機能ではソフトウェアー

の作り方によっては個別対応

が必要な場合があります。→

UsbManage/別名保存禁止P26

※2) データの差し替えが多い

場合は、別製品の「ハイパーセ

キュリティー」を推奨していま

す。ハイパーセキュリティーは

保存するだけでコピーロックし

て、許可ソフトウェアーの登録

が不要で取り扱いが簡単です。



利用事例

■USBメモリでのコンテンツ販売メリット

USBメモリにコンテンツを入れて販売するメリットは、大容量で 多品種に対応できる点です。書き換えができる事はUSBメモリ のメリットです。また、ハイパーセキュリティーUSBメモリでは、 幅広い種類のデータ形式に対応しておりプログラムなどを含め 多くの形式に対応しています。※1

■教材(映像、音声)

MP4やWMVといった映像コンテンツをそのまま配布できるメリッ トがあります。最近では映像コンテンツのデータ量が増えてお り、従来の光学メディア(CD/DVD)では枚数が増えてしまいます がUSBメモリなら1本に保存ができます。DVDなどでは、DVD-Video形式への変換作業が必要なのでコンテンツ量が多い場 合は手間になりますが、USBメモリは動画形式を変換する事無 く保存が可能です。音声データの配布にはMP3等の形式も配 布可能です。オンラインでのストリーミング配信を行っている場 合でも脱退会員に映像コンテンツを提供できるケースで利用さ れています。

■プログラムとスクリプトファイル

プログラム配布では、お試しバージョンの利用やスクリプトファ イルの配布などで使われています。ハイパーセキュリティー USBメモリでは、拡張子".exe"実行形式やテキストファイルで供 給されるスクリプトファイルにもコピーガードをかけた状態で実 行が可能です。

スクリプトファイルとは、例えば、ExcelのVBAやFXの自動売買 システム(システムトレード)のインジェクションファイルを差しま す。VBAやインジェクションはテキストファイルで提供される場 合が多い為、簡単にコピーされてしまいます。ハイパーセキュリ ティーUSBメモリでは、許可プログラム設定により、テキストファ イルであってもメモ帳やテキストエディタで開く事ができませ ん。また、USBメモリ内に保存されているスクリプトファイルはコ ピーガードがかかり複製ができません。

ハイパーセキュリティーUSBメモリでは、プログラムと生成され るデータにもコピーガードがかかります。

■商品カタログの配布

PDFやHTML、JPEGファイルなどで作られる商品カタログ の配布で利用されます。大量な写真や商品情報などは、 ネット流出や同業者への流出などは避けたいものです。ハ イパーセキュリティーUSBメモリへ保存するだけでコピー ガードを付けた状態で配布する事ができます。USBメモリで すので書き換え可能で新製品の追加や差し替えなども可 能です。

USBメモリならノートブックパソコンなどCDドライブをもって いないパソコンでも閲覧できます。

■設計図などの配布

生産工場への設計図や指示書、保守マニュアル、設計図 の配布に利用されます。例えば、造船など大型の製造物 でゼネコン構造で関係業者が多く国籍や派遣登用などが 管理できない場合が増えています。近年、設計図や保守マ ニュアルは電子化されておりコピーが簡単です。

ホームページ作成で使われているHTMLの基になっている SGMLやXMLなどは元々、航空機や軍事で利用される保守 マニュアル用の電子文書からはじまっています。従来は膨 大な紙資料でしたので物理的な持ち出しは目立ってしまい 追跡もできましたが、最近ではPDFなどで電子化が進み USBメモリに大量データをコピーできるので機密性を保持 するのが難しくなっています。ハイパーセキュリティーUSB メモリは、色々なコンテンツに対応できるので保守マニュア ルや設計図の保管や閲覧には最適です。(※2)

■社内用途、作業マニュアル

業務用の作業マニュアルを配布する場合に利用されます。 社員教育用ビデオ、惣菜チェーンの動画レシピ、営業マ ニュアルなどノウハウが詰まった社内用の資料はコピーを 禁止したいニーズです。また、原価が入っている見積積算 システムの営業マン配布用でも利用されています。

4